

凡例

本書は中學校及びこれと同等なる諸學校の教科書に於て

ため明治三十五年二月六日、文部省訓令第三號の中學校教授細

目によりて編纂したるものなり。

一固有名稱は支那朝鮮を除くの外、大抵片假字を以て、これを顯は

し、從來世人の慣用せしものもしくは、官報等においてあるものは、

そのままの漢字を籠頭に註記せり。

一固有名稱の讀方は、大抵イギリス語の發音に従ひ、その左傍にイ

ギリス語を附せり、されど、フランス・ドイツ・ロシア等の地名にし

て、その讀方、既に我が國人の普く知れるものは、イギリス讀みの

下に、更にその發音を註記し、左傍にその國語を附せり。

一籠頭に細字を以て註記したるものは、本文に於て詳述する餘裕

なきを補はんがためにして、教師はこれによりて脱稿の餘地を得、生徒はこれによりて記憶を惹起するの便宜を得べしと思へる、編者が用意にいてたるなり。

一本文の右傍には、處々に――を劃せり、これまた、生徒の記憶に便せんがための編者が特別の注意に他ならず。

一各國の幅員は、凡て我が里法によりたり、もし、これをイギリスの哩法に換算せんとせば、我が方里に整数六を乗せば、その概略を知悉するを得ん。

一貨幣及び度量衡は、大概我が國のものを以て顯はしたれども、また各國のを、そのまま襲用したるもあり、もし、彼我を對照せんとならば、左の用例に従ふべし。

一哩は十四町四十五間

一海里は十六町五十八間

一メートルは三尺三寸

一キロメートルは九町十間

一ミリメートルは三厘三毛

一清里は五町六間

一韓里は三町十二間

一噸は約二百七十貫匁

一封度は百二十匁

一ガロンは二升五合

一弗は金貳圓

一兩は約金一圓四十錢

一寒暖計は、學術上の通用として、攝氏によるを可とすれども、普通

に世人の用ふるは弗氏なるを以て、本書もまたこれを用ふもし、これを攝氏のに改算せんとならば、左の法によるべし。
 但Cは攝氏、Fは華氏なることを示す。

$C = \frac{5}{9}(F - 32)$

編者しるす

85-251

最新外國地理教科書上巻目次

アジア

總論

地方誌

(一) 朝鮮

(二) 支那

(三) アジア、ロシア

レベリア 中央アチア

コーカサス

(四) アジア、トルコ(附サモス島)

(五) アラビア(附オーマン王國)

(六) イラン地方

一頁

一頁

一頁

一四頁

八六頁

六五頁

七五頁

八〇頁

八五頁

ペルシア・アフガニスタン
ベルトチスタン

(七) インド (附ケール・ブータン)

八七頁

(八) インド支那半島

九五頁

ビルマ・海峽殖民地・シヤム・
フランス領インド支那

(九) マライ群島

一〇七頁

スマトラ島・スマタラ島・ボルネオ島
スル諸島・フィリピン諸島・セレベス
島・チモール島・モラクカス諸島

大洋洲

一一四頁

(一) オーストララジア群島

一二四頁

オーストラリア島・タスマニア島

ニューギニア島

(二) メラネジア群島

一四四頁

ニューギニア島・ビスマルク諸島・サ
ロモン諸島・ニューヘブリーズ諸島
ニューカレドニア諸島・ローヤルチ
諸島・フタ諸島

(三) ミクロネシア群島

一五八頁

ヤルバルト諸島・マーシャル諸島・カ
ライン諸島・マリアナ諸島

(四) ポリネシア群島

一七二頁

トンガ諸島・サモア諸島・ンサイエチ
諸島・ハーヴェー諸島・ハワイ諸島

最新外國地理教科書上巻目次終

最新外國地理教科書上巻挿圖畫目次

一	カンチンワンガ峯	六頁
二	アジアの鱈魚、羚羊、駱駝	一三頁
三	黄河の上流	三三頁
四	鴉片煙を喫せる支那人	四二頁
五	支那の婦人	四三頁
六	厦門	五三頁
七	香港及びその附近のイギリス領地	五七頁
八	萬里長城	五九頁
九	マモスの遺骸	六五頁
十	コーカサス鐵道	七四頁
十一	死海の低面	七六頁
十二	シナイ山	七八頁
十三	小アジア半島の西部	七九頁

十四	アデン	八二頁
十五	ポーランド	八六頁
十六	ボツネー島	九二頁
十七	スリナガルの市街	九三頁
十八	海峡殖民地	九七頁
十九	シンガポール	九八頁
二十	シヤムの僧侶と民屋	一〇一頁
廿一	シヤムの王城とメナム河畔	一〇四頁
廿二	オーストラリアの金田	一一八頁
廿三	濠洲風俗とその家屋	一二九頁
廿四	パプア人と獨木舟	一三六頁
廿五	サロモン及びビスマルク諸島	一三七頁
廿六	珊瑚島と火山島	一四九頁
廿七	サントカタ諸島	一五三頁

最新外國地理教科書上卷挿圖畫目次終

最新外國地理教科書 上卷

理學士 岩崎重三 共編
池田鹿之助

アジア (ASIA.)

總論

位置 アジア大陸は、東半球の東部に位す。北は北氷洋(ARCTIC OCEAN)に洗はれ、東は太平洋(PACIFIC OCEAN)に臨み、南は印度洋(INDIAN OCEAN)に面し、西はウラル山脈(URAL)、裏海、黒海、地中海等によりてヨーロッパと界を交へ、西南隅は、スーエズ地頸、紅海によりてアフリカ(AFRICA)に連なる。全土の面積(ISTHMUS OF SUEZ)

二百八十六萬方里あり。

區劃 アジアには、日本、朝鮮、支那、アジア、ロシア、アジア、トル
コ、アラビア、インド、地方、インド、支那、半島、マライ、群島
等の地域ありて、アジア、ロシアには、シベリア、中央アジア、コ
ーカサス、イラン、地方には、ヘルシア、アフガニスタン、ペル
チスタン、インド、支那、半島には、ビルマ、海峽、殖民地、シム、フラ
ンス、領、インド、支那等の諸部あり。

本土の大部は外國の領土、もしくは保護地にして、日本、朝鮮、
支那、シム、メルシアなどが、獨立の國體を保てる外、ネパール、
ブータン、アフガニスタン、及びオーマンの各獨立部あるに
過ぎず、その中、立憲の政治を行へるは、獨り日本のみにして、
他は、國勢の盛んなるものなし。

地勢 海岸は、東部南部に於て著しく屈曲し、ベーリング海
峽より、マラカ海峽に至る間には、アリューシャン群島、カチン
カ半島、サガリーン島、日本群島、朝鮮半島、及びマライ群島あ
りて、ベーリング海、オコツク海、日本海、黄海、東海、支那海等と、
太平洋との水を限り、マラカ海峽よりスーエズ地頸に至る
間には、ベンゴール灣、アラビア海、ペルシア灣、紅海等の海灣、
北方に彎入して、インド支那半島、デカン半島、アラビア半島
を分ち、インド支那半島の南部、また突出して、マライ半島を
なす。されど、北部は、オビ、エニセイの二灣、及びタイミル半島
北方に突出せる外、概ね出入に乏しく、西部また、小アジア半
島突出して、ボスフォラス、ダルダネルズの兩海峽は、マール
セラ海を抱ける外、大抵屈曲少なきを以て、本大陸の海岸は、

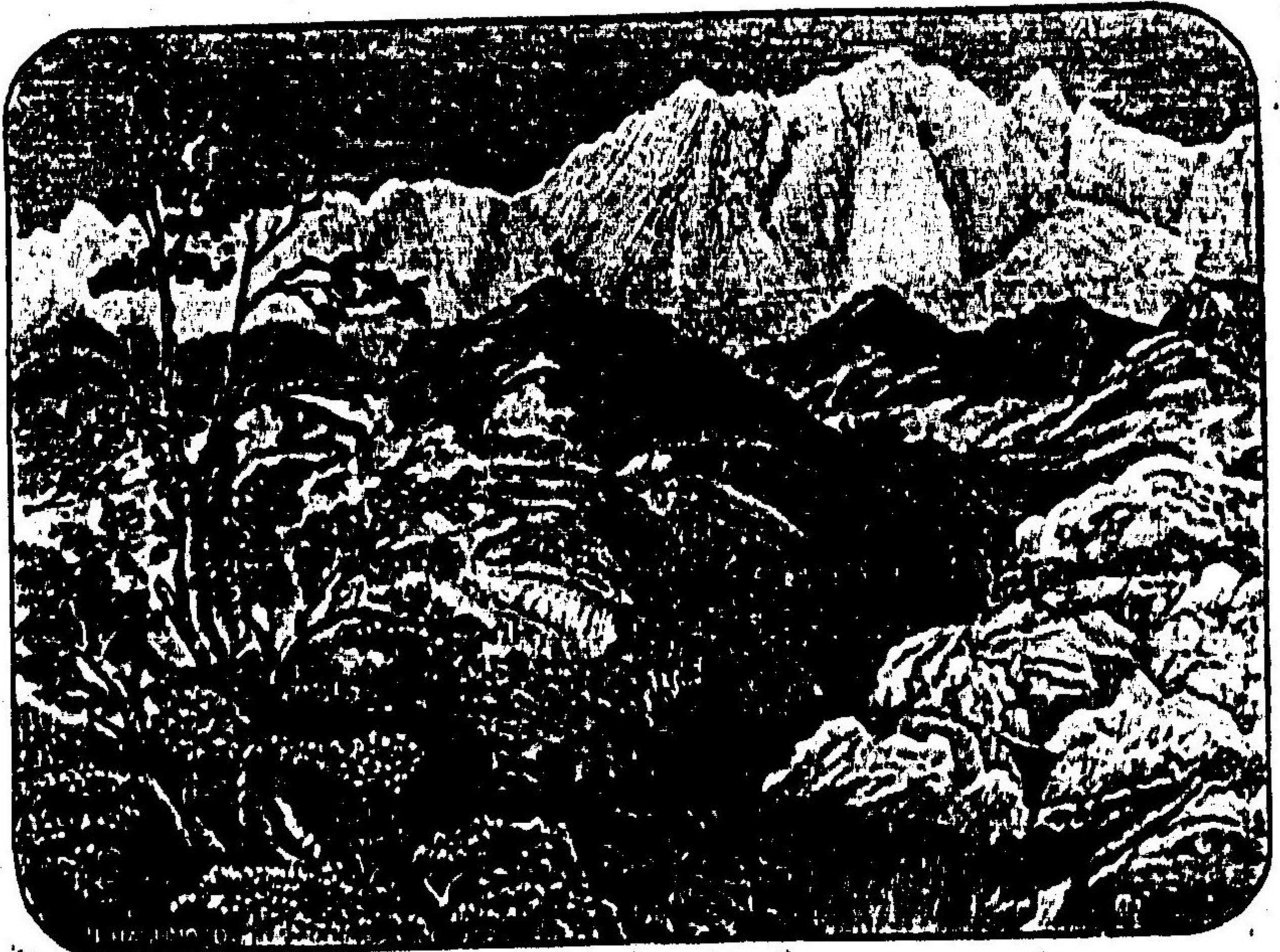
1857年
アムステルダム

その延長僅かに一萬五千里に充たず、ベーリング海峡に突
 出せる東岬は、小アジア半島のババ岬と共に、本大陸の東西
 両端にして、タイミル半島のカマリースキン岬は、マライ半島
 のローマニア岬と共に、本大陸の南北両端たり。
 アジアの地圖をのべて、土地の高低を見るに、全土の中央よ
 り、稍西に偏せる處に、バミール臺地あり、この地方は、地高一
 萬尺より一萬五千尺に達する、地球上第一の高地にして、地
 理學者のいはゆる「世界の屋根」と呼べる處とす。本土の山系
 は、皆この臺地を中心として四方に分岐すれども、とりわけ、
 東北に走れる天山山脈・アルタイ山脈・ヤプロノイ山脈より
 スタノヴィイ山脈につづきて、ベーリング海峡に終る一帯の
 階山脈と西に亘れる、ヒンツーク・シ・山脈より、エルブールズ
 階山脈と西に亘れる、ヒンツーク・シ・山脈より、エルブールズ

山脈につづき、裏海の南岸に沿ひて、猶西北に、ボスプーラス
 海峡に達せる連脈とは、地勢上、全土を自然に高地・低地の二
 帯に分割す。

(一)低地帯はシベリア・中央アジアの地域を占め、處々に山岳
 を充たせども、裏海・アラル海・バイカル湖・バルカシ湖などを
 たたへ、地大體、北に傾きて低き原野をなし、裏海より、アラル
 海・バルカシ湖に至る一帯の低原の如きは、支那の西北部な
 る砂漠性高原と共に、上古は、オビ河筋を通じて、北氷洋と地
 中海とを連結せし、内海の遺跡なりと稱せらる。

(二)高地帯は、連脈以南の地區にして、處々に平原・臺地等を混
 ふれども、バミール臺地より分るる、ヒマラヤ山脈は、北なる
 崑崙山脈と共に、西蔵高原を抱き、崑崙山脈は、陰山・興安等の



峰ガンロンテンカ

諸山脈につづき、アル
 タイ山脈の一派と相
 應じて、支那の西北部
 の砂漠性高原を擁し、
 ハミール盆地より、南
 に分派せるスリヤン
 山脈は、ザグロス山脈
 と共に、イラン高原を
 包み、又エルブールズ
 山脈の亘れる處に、ア
 ルメーニア高原あり、
 更に西に、アナトリア

（二）エケレ
 スト大陸の
 始めて測定
 せしにちな
 じ

高原あり、南に砂漠性なるアラビヤ高原あり、インドの南部、
 またデカン高原をなせり。ヒマラヤ山脈は、世界有数の大山
 脈にして、そのゴリリサンカル峰、即ちエヴレスト峰は、世界
 第一の高峰にして、二萬九千尺に聳え、カンチンジンガ峰ま
 た二萬八千尺以上に達せり。
 本土は、五大陸中第一の大陸なるを以て、他大陸と較ぶれば、
 長江大河甚だ多し。
 本土の水系は、山脈の趨勢により、北東南の三方に分たれ、（一）
 エニセイ・レナ・オビの三大河は、北氷洋に流れ、（二）黒龍江・黄河・
 楊子江・廣東河・メーコン河・メナム河等は、太平洋に注ぎ、（三）サ
 ルーエン・イラワヂ・ブラマプートラ・ガンヂーヌ・インダス等
 の大河は、印度洋に潮す。

本土の河流は、その流域甚だ廣く、殊に揚子江・エニセイ河・レナ河・黒龍江・オビ河・黃河の六大河は、流程千里以上に達す。されど、揚子江を除くの外は、大抵舟運の便少なく、エニセイ河・オビ河・黒龍江の四大河は、水層深く、流勢緩く、黒龍江の如きは、江口より九百里の間、汽船の航行あれども、氷期永きにより、夏期僅かにシベリアの交通を助くるに過ぎず。黃河の如きも、その勾配急なるが上に、流路は黄土層地方を通過せるを以て、夥しく土沙を流し、河底或は附近の地よりも高さ處ありて、漕運を利せず。西部は地形の狭小なると、山脈その脊梁をなせるとにより、北に流るるアム・デーダリア・シル・ダリア(AMU DARIYA)、南に注ぐカイダリス・ユーフラテス(EUPHRATES)の外、或は内地の湖沼に排水し、或は砂原のうちに、その流路を失ひ、長大なる水系

このアム・デーダリア・シル・ダリアは、
ハルシニアの間に
流して河の

をなさず。

氣候 アジヤは、北緯四十度の線、殆ど中央を横ぎり、南北兩部は寒・熱二帯の地に跨るを以て、氣候は寒・溫・熱の三帯を有し、北緯六十五度以北の中央部の如きは、夏期には、其表面高温なれども、地下數尺の處は、常に、レナ河東のヘルクホヤンスクの如きは、夏期には、華氏の寒暖計百二度に昇ることあるに反し、冬期には、同じく氷點下百十七度に降り、一年の平均溫度は、同じく氷點下三十度にして、世界最寒の地と稱せらる。イラン高原・アラビア及びアジヤ、トルコの一部は、土地高きが上に、沿岸山脈によりて包まると、南西にアフリカを控ふるとにより、海風を受くることなく、從ひて、降雨少なく、空氣常に乾燥して、寒暑の差劇しく、オースマン地方

の如きは、世界最熱の地と稱せらる。またインド・インド支那及び支那の東部地方は、海洋の影響を受け、降雨豊かなるに
より、土地濕潤に失し、インドのアッサム地方(ASSAM)の如きは、雨量の
多きこと世界に冠たり、支那の高原地方は、地域海に遠く、且
つ山脈四方を圍めるにより、空氣は常に乾燥して、朝露だも
生ぜざる處あり。

天産物 本土には、天産物甚だ多く、**鑛物**につきては、白金は
シベリアを主とし、金・銀は日本・支那・インド及びビルマ等に
多く、鐵・石炭は支那・インド・日本・ボルネオ島より産し、又日本
の銅・マライ半島の錫・インドの諸寶石皆名高く、石油はコー
カサスの東部(CASA)・ジブチ島より多量に産す、**動植物**につきては、
その種類の夥しきこと、實に世界第一にして、穀類は、北緯六

十度以南の地、その栽培に適し、殊に日本・支那・インド・インド
支那等は、米の本場として知られ、朝鮮・支那の北部には、多く
高粱・粟を産す、茶は日本・支那を主とすれども、インドもまた、
近年世界の市場に注目せらるるに至れり、その他、綿・藍・鴉片
甘蔗・麻類はまたインドの特産物として知られ、フリッピン諸
島の烟草、アラビアの珈琲、マライ半島(MALAY)・スバイス島の香料と
もに著名なり、桑樹の栽培は、日本・支那に適せるにより、この
二國の蠶業は、宇内に聞ゆ、林産は、南部の溫暖地方に産する
チーク樹(TEAK)・紫檀・檳榔・椰子樹・檳榔樹・腰樹等、いづれも世に知
らる、動物は、獅子・虎・象・犀より、鱷・魚・蛇・蝮を産し、馬・駱駝・羚羊は、
本土の西南部より、支那の西北部にかけて飼養せられ、馴鹿
はシベリアに多く、支那の北部よりシベリアにかけては、貂



駝 駝 羊 猴 魚 鱈

白狐・白熊等あり。

住民 アジアの總人口は、凡そ八億五千萬ありて、その密度は、一方里につき、平均三百人許を入るるに足らず、人口の分布は、著しく疎密の差ありて、支那は總體の人口四億以上、インドまた約三億を有せるを以て、他の諸國は、人口極めて稀少なる割合となれり、本

土にて、人口の最も稠密なるは日本にして、その稀少なるはシベリアなり。

人種を分ちて、蒙古人種・コーカサス人種・マライ人種の三種とす。そのうち、蒙古人種は、總人口の十分の七を占め、日本・朝鮮・支那の全部・インド・支那・アジア、トルコ・中央アジアの大部及びシベリアの土人等これに屬す。インド・イラン地方・アラビア・コーカサスの大部及びシベリアの移住民は主にコーカサス人種、その餘はマライ人種にして、マライ半島・マライ群島の大部に分れ住す。

本土に流布する主なる宗教を、インド教・佛教・回教等とす。インド教は、インドの住民多くこれを信じ、日本・支那・朝鮮・インド支那・セーロン島・ボルネオ島の民は、主に佛教に歸

依し、本土の西部・中部・イラン地方・マライ半島・マライ群島の住民は、大抵回教を奉ぜり。基督教は、從來勢力甚だ微弱なりしが、今は、インド・ユーカラス・アジア、トルコ・シベリア等に多數の信者を有せり。

地方誌

(一) 朝鮮

朝鮮は、國號を大韓といふ。アジアの東部より海中に突出して、黄海と日本海とを兩分し、北は支那、及びシベリアに接し、東は日本海に臨み、南は朝鮮海峡を距てて我が國に對し、西は黄海に瀕す。全土の廣さ、我が國の本州に均し。

域内は、もと京畿道・忠清道・慶尙道・全羅道・江原道・黃海道・平安道・咸鏡道の八道なりしが、今は、施政上、忠清・慶尙・全羅・平安・咸鏡の五道を各南北に分ちて十三道となせり。沿海は、黄海より朝鮮海峡に至る方面に、海岸著しく屈曲して、釜山浦・馬山浦・木浦・濟物浦・大同江灣・鴨綠江口などの出入あれども、日本海の方面には、慶興灣・德源灣・迎日灣等の外海岸の出入に乏し。島嶼の主なるものは、東には鬱陵島あり、西より南にかけては、濟州島・巨濟島・珍島・江華島・閑山島・巨文島などあり、就中、濟州島は國內第一の大島にして、島中には漢羅山高く聳ゆ。地勢は、德源灣より江華島のかたへ一線を劃して、南北その構造を異にし、北朝鮮は、長白山脈と並行して、數條の分水脈

は西南より漸次東北に横列をなせるを以て、山岳到る處に延び亘れども、南朝鮮は分水脈東岸に接近して、南北を縦貫せるにより、東部は土地の嶮悪なるに反し、西部は山嶺起伏せるうちに、多少の平原を交へ、全羅南道及び北道忠清北道の平野の如きは、地味肥沃にして、農業よく發達せり。河流は、地形の狹長なると、山岳の起伏せるにより、流路一般に短小にして、西部南部に流るる鴨綠江、清川江、大同江、漢江、錦江、榮山江、洛東江及び日本海に注ぐ圖們江等は、その流域稍廣く、殊に鴨綠江、圖們江、大同江、漢江、錦江、洛東江は、國の六大江と稱し、水量多く、流程亦五十里以上に達すれども、多くは、河身の修理、護岸の設備完からざるが故に、舟運漕漈の便を助くること極めて少なし。

この各河川は、
慶尚の各川
北六江

この國の緯度を以て、我が國に移さば、九州の北端より小樽邊までにあてはまるを以て、大體の氣候は、我が國と大差なきはづなれども、大陸に接せるにより、純然たる大陸性氣候を有し、三南地方は、夏期洋蠟炎熱のために溶け、北部地方は、冬期積雪尺餘に達し、漢江の如きは、江上よく人馬を往來せしめ、又酒類の凍ることさへもあり、全土降雨多く、殊に夏期は豪雨ありて、陸路の交通を止むることあり。農産は大抵我が國のと類すれども、國民が農業を勤めざると、偏へに天然を頼みて、肥料を施さざるとにより、一般に味ひ美ならず、質また良しからず、耕作物は、米、麥、豆、稗、粟、高粱、人蔘等を主とし、米、麥は中部南部の地に産すれども、北部にはこれなきを以て、地方の住民は、粟、稗、高粱などを常食とせり、

國土、茶、甘蔗の耕作に適せず、従ひて國人は蜂蜜を砂糖に、蜜水を茶に代用せり。林産は、三南地方の山地にては、樹木を濫伐せし結果、岩壁砂丘處々に山骨を現はし、不毛の地の觀をなせども、北部の山地よりは、松柏樅類の良材を産す。動物もまた、我が國のと異ならざれども、我れになきものは、虎及び驪あり、牛は各地に飼養せられ、我が國のよりは、體軀一般に強大なり、また國中最も多きは犬にして、家毎にこれを畜ひ、その皮を敷物とし、その肉を食す。

海産物は、江原、全羅、咸鏡、慶尙、諸道の沿海より、鱈、明太、魚、海參等を産す、されど、漁船、漁具の不完全なるにより、大抵我が國民に漁網せられ、韓人は却てその供給を仰げり。

鑛産は、砂金、鐵、最も多く、砂金は、平安道の安城、殷山、全羅道の龍潭、咸鏡道の永興、忠清道の稷山等に産し、鐵は、平安道の价川、龜城、咸鏡道の文川、北青、中山、黃海道、の載寧、殷栗、海州附近の鐵峴、慶尙道の慶州等に多し、又銅、銀、鉛等を出だせども、その採掘少く、銅の如きは、我が國よりの輸入多し。

住民は、蒙古人種の韓族にして、人口五百餘萬あり、國民の階級は、兩班、常漢、及び奴隸の三等に分る。兩班は貴族にして、政治上、社交上に至大の勢力を有し、常漢、奴隸の如きは、兩班の通行に遇へば皆地上に伏し、敬意を表するなど、貴賤の別甚だ嚴なり、國民の缺點として、概ね忍耐の氣象に乏しく、又輕躁にして、怒り易き風あり、その作業をなせるさまもまた、晝間の大部は、午睡、喫烟、雜談にその時を費し、勤勉貯蓄の美風全く地を掃へり。

教育の制度は、今に舊習を守り、字房と稱する私塾につきて學を受く、國文は、民間一般に、謄文として我が片假字に似たる文字を用ふれども、政府の文書、法律文などは、凡て漢文にして、上流社會皆これを用ふ

宗教は、上流社會の人のみ儒教を信じ、普通の民はこれを顧みるものあらず、佛教は、往時甚だ盛んなりしが、今は、その寺坊を地方に残せるのみ、國民一般に迷信深く、不時の災害に遇ふときは、路傍の一里塚に至り、石を積み上げ、著物の一片を縛り附けて祈禱するなど、愚昧なる風習、今猶盛んに行はる、基督教の如きも、久しく布教に従事してあれども、今に信徒少なし。

政體は君主專制にして、政府の組織は、我が國の内閣に似た

るものを議政府といひ、その次に、内務、外務、度支、軍務、法務、農商、工務、學務の七部ありて、各部の大臣はまた、議政府に入りては、贊政と稱し、樞要の國務に參與す、その他、中樞院、宮内府、及び警務院等あり、地方制度は、各道に監察使を置き、その下に、府尹、牧使、郡守などありて、地方一切の政務をなす、軍備は、陸軍にては、實際の常備兵として、事に堪ふるものは、僅に四千餘の歩兵あるに過ぎず、海軍は、今に洋式の艦艇一隻をも有せず。

明治九年、我が國と通商條約を結ぶ。

内地の商業は、一週一度、市場を開きて、日常需用の雜貨を取引す、通貨は、金貨を以て本位とし、他に、銀、白銅、赤銅、及び韓錢よりなれる數種の補助貨幣あれども、韓錢の外、未だ多く行

はれず、外國貿易場は、仁川、釜山、元山、木浦、鎮南浦、馬山、群山、城津、京城の各開港場及び平壤の開市場あり。その取引は、輸入とも、年々増加すれども、國民生活の程度低きを以て、購買力甚だ鈍し、取引先は、日本、支那、ロシアを主とし、我が製品費消の區域は、逐次繁殖の傾向あり。

この外國貿易の概況によれば、輸出重要品中にて、最も多額を占むるは金地金にして、これにつぐものを、米、豆類、紅蔘、牛皮等とし、その他のものを加へて、總價格九百五十萬圓あり、その中、我が國へ輸出せし價格は五百萬圓にして、その三百六十萬圓は金地金とし、米、大豆これにつぐ、輸入重要品中にて、最も多額を占むるを金巾とし、これにつぐものを紡績絲、石油等とし、輸入全體の總價格一千百萬圓あり、輸入の最

も多きは、金巾を第一とし、その價格實に總體の三分の一に達す、これ國民一般の習ひとして、いかなる賤民も、猶且つ周歲悉く白色の衣を纏ひ、又新年には、必ず新衣を調製するを以ての故に外ならず、我が國よりの輸入は、その價格七百萬圓ありて、綿織絲、白木綿、生金巾等その大部を占む。

内地の交通は、京城より平壤を経て、義州に至る道路のみ、從來支那の使臣が往來せしにより、稍平坦なれども、その他は、嘗て修繕を加へざるを以て、貨物の運送旅人の往來皆困難を極む、鐵道は、我が國人の經營になれる、京仁鐵道のみ既に開通し、我が國人の敷設權を有せる京釜鐵道は、目下工事中に屬し、また京城、義州間の京義鐵道は、未だ工事に着手せず、航運の事業は、殆ど我が國人の占むる所にかかり、日本郵船

この山脈の
加増正の
管轄しし處

開けし處にして、居留地は、灣の西部を占めて一區をなし、在
留人六千に及び、領事館、郵便電信局等ありて、市場の取引も
また、日本人その全權を握れる様、恰も我が國の都會に異な
らず、釜山の北に東萊あり、その東北に蔚山あり、釜山の西な
る馬山は、開港場なれども、取引は未だ盛んならず、ここにも
我が國人在留し、居留地を設定し、領事館、郵便局あり。
京城より、漢江に沿ひて東し、更に支流を北に遡れば、春川あ
り、この地は山間の都會なれども、漢江舟運の極點地なるに
より、市況稍賑やかなり、春川より北の方、鐵嶺の嶮を越ゆれ
ば、元山あり、この沿道には、處々に砂金、鐵を山だす處あり、鐵
嶺の東南に聳ゆる金剛山は、國中第一の靈山にして、亂立せ
る奇峯は、皆楓松を以て蔽はるるにより、楓岳又は一萬二千

この山脈古
の都會にし
て、朝鮮子
の國あり

峯と稱し、この山を見ざる中は、韓國を知らざる痴人なりと、
韓人のいへるも、敢て過言にあらず。元山は韓國第三の開港
場にして、德源灣の南岸に位し、砂金、穀類、牛皮の輸出多し、我
が國の領事館、郵便局ありて、在留人千五百許あり、元山の北
なる咸興より、日本海岸に沿ひ、北に北青、端川、城津、鏡城、慶興
の都會あり、城津は開港場なれども、貿易未だ盛んならず、こ
れ等附近の海は、明太魚の中心漁場にして、冬期の漁網最も
盛んに、多くは乾魚として全國に販賣す、この魚は、現王朝の
太祖李成瑄が嘗て咸鏡道にありし時、好みて食せしより、今
も猶祝祭日には國人一般にこれを用ふ。
平壤は、又西京と稱す、國內第二の都會にして、大同江に沿ひ、
頗る要害の地を占む、府の東の乙密、襄、牡丹、蘆は、玄武門と共

に日清の役に關し、我が史上に名あり、我が國人ここに在留し、郵便局あり、平壤より南は、黃州、開城を経て京城に通じ、又北は、定州、義州を過ぎて支那に連なり、京義鐵道は、この街道に沿ひて敷かれんとす。平壤より、大同江をたどりて江口に
出づれば、右岸に鎮南浦あり、開港場にして、我が國人在留し、領事館、郵便局あり、この地は、日清役の時、我が國の兵站部を置きし處なり。

(二)支那

支那は、國號を大清といふ。アジアの東南部を占め、北より東はシベリアに接し、東は朝鮮に界し、又黃海、東海に瀕し、東南

は支那海を控へ、南より西はフランス領インド支那、インドに交はり、西は中央アジアを限る。廣さ我が國の二十六倍あり。

城内を分ちて、支那本部、滿洲、新疆省、蒙古、青海、西藏の六部とし、先なる三部を直省、後なる三部を藩部とす。支那本部は、支那人の所謂中國にして、更に直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、江西、福建、浙江、湖北、湖南、陝西、甘肅、四川、廣東、廣西、雲南、貴州の十八省に分ち、滿洲、又盛京、吉林、黑龍江の三省よりなる。

沿海は、渤海、黃海、東海及び支那海を控へて、遼東灣、直隸灣、大連灣、膠州灣、廣東灣等の港灣をなし、半島には、遼東半島、山東半島、雷州半島等あれども、瀕海の方面は、東より南へかかる一部に限るを以て、海岸線の延長は、僅に二千里に過ぎず。

支那の地理

こそりて
大行山脈
ありては
西にびこ
る五山の
一なる
なり
伏牛の三
山あり

地勢は、大體西より東へ低下し、國內に亘れる山脈は、皆バミール嶺地より分岐せり、就中、ヒマラヤ山脈は、バミールの北なる葱嶺より分れて、新疆省を東西に横断し、その一端は、更にアルタイ・ヤプロノイの諸脈を起して、西と北とを圍み、崑崙山脈は、バミールの南なるカラコラム山脈より分れ、ヒマラヤ・天山の兩脈間を、東へ走りて、西藏新疆省の界を限り、餘脈東端より三脈となり、東北なるは、陰山・興安の諸脈につづき、東に長白山脈を起し、更に南下して、山東半島の山地をなし、東なるは、北嶺を起して、黄河と楊子江との流域を分ち、東南なるは、南嶺となりて、楊子江と廣東河との流域を限るを以て、地勢は自然に左の三部に分る。

な合て
五山
のなる
山脈
あり
三山
あり
のなる
山脈
あり
のなる
山脈
あり

- (一) 天山・アルタイ・ヤプロノイの諸脈と、陰山・興安諸脈との間は、蒙古・新疆省にして、多くは高原よりなり、外洋より來る濕風は、皆周圍の山脈に遮らるるが故に、一般に降雨少なく、有名なる戈壁の大砂漠ここに存す。
 - (二) ヒマラヤ山脈と崑崙山脈との間は、西藏・青海にして、大部は、海拔一萬尺より一萬五千尺に達する世界第一の高原地方に屬し、山谷には、人跡の未だ至らざる處多し。
 - (三) 崑崙の支脈なる、陰山・北嶺・南嶺等、諸脈の間は、滿洲及び支那本部にして、滿洲は、その大部森林を以て充たされてあれども、本部は、豐沃の平原に屬し、支那の富源は、多くこの地方一帯に存し、國民の九割以上實にここにあり。
- 河流は、東部及び南部に流るる黄河・楊子江・廣東河の外、瀾滄

江、怒江、龍川江、フラマプートラ河、インダス河の如きは、源流



流上の河黄

を西藏高原に有するに止まり、松花江、遼河、白河また、流域狭小にして、舟運灌漑の便を助くること少なく、黄河の如きも、行程千二百餘里にして、その流域は、十二萬方里に遼すれども、流勢速くして、水運の利に乏しきのみならず、河道は流下する黄土に埋められ、又年々の洪水は、流路をかへて、數省の内

三又原に江といひ上流といふ

二原に河といふ

二西江にして東江北江と合ひて西江となる

にして、行程千五百里に達し、その流域は十六萬方里に跨り、上流は、急湍奔流をなして舟行危険なれども、中流以下は、水勢緩きを以て、汽船は江口より四百里、小舟は七百里まで航行し、沿岸には、許多の開港場あるのみならず、流域の平野は、土肥え、桑園相望みて、蠶業よく發達し、全國中農産の最も豊富なる處たり。これにつげるは、廣東河にして、行程は僅かに四百里なれども、梧州まで汽船を通ずるを以て、西南部地方に於ける須要の河流たり。

國土廣きを以て、氣候從ひて均一ならず、滿洲、蒙古、新疆、青海、西藏は、寒暑共に強き大陸性氣候にして、滿洲の如きは、北部は、冬期華氏の寒峻計、氷點下四十度より五十度に降り、夏は同じく九十度に上ることあり、西藏亦寒さ強く、高嶺は皆

千古の雪を残せり、蒙古、新疆省は、四周の山岳、濕風を遮るに
より、降雨甚だ少なく、空氣は一般に乾燥なり。支那本部は、黃
河、揚子江の流域は、外洋より濕風を受けて、寒暖を調和し、南
部も沿岸の地は、夏秋の候大風屢起り、田園家屋を害するこ
とあれども、氣候風ありて雨量夥し、されど、北部は稍大陸性
にして、北京の地は、夏時の溫度九十七度に上ることあり。
産業は、政府の統計なきが故に、精確なる數量及び價格を知
ること能はされども、支那本部にては、米、麥、玉蜀黍、高粱、綿茶、
麻、甘蔗、人蔘の農産多く、殊に米は、古來國民の常食物なるを
以て、南部、中部の水田は、その産額夥しく、殊に江蘇、浙江、江西、
湖南の諸省は、數量の多きと、品質の佳なるとを以て、粵、こ
れに反して、直隸、山西、陝西、甘肅の諸省は、水田に乏しきによ

り、住民は概ね麥、高粱、粟などを主食物とす、絹は中部、南部よ
り産し、殊に江蘇、浙江よりのは品質佳良なり、茶は、紅茶、綠茶、
磚茶、茶末の種類あり、多くは南部、中部に栽培せられ、殊に福
建省よりは、最も良好なる茶葉を出だし、一葉或は一兩に價
するものありて、生絲と共に、輸出の大部を占むる特産物な
り、甘蔗、麻は南部地方を主とし、廣東省の砂糖最も名あり、鴉
片はもと、いづれの地方にも栽培せざりしが、今は、滿洲より
佳良のものを産す、又國の風土、桑樹の栽培に適し、江蘇、浙江、
湖北、福建、廣東の諸省これが中心に當り、従ひて、蠶業は古來
發達し、絹織物、生絲は、夙に外國の市場に名高し、その他、山東、
山西の二省には、盛んに野蠶を飼ひ、山繭をとりて、それより
絹紬を製す。

滿洲は米作に適せざれども、豆、粟、高粱等の産に富み、豆類及びそれより製する油糟は、殊に主要の輸出品たり。この地方また、古へより北狄の侵害を防ぐため、森林の伐採を禁ぜしにより、松柏樅類は到る處に繁茂し、悉く伐り取らむには、凡そ一世紀間を要す。蒙古も亦佳良なる人參を産す。

牧業は、各地共に盛んにし、蒙古の馬、駱駝、山羊、綿羊、羚羊、滿洲の騾、蒙古、滿洲の黃牛、南部諸省の水牛、直隸省の驢等は、その産出夥しく、蒙古の如きは、婦女兒童までも牧養に従事し、富家は、牧馬二萬頭に及ぶものあり、豕は肉食品、中國人の最も嗜むものなるを以て、大抵各地に飼養し、又西藏、雲南省の麝香は殊に世に名高し、毛皮獸は、殊に滿洲に多く、虎、豹、熊、黑貂の類あり、海産物は、最も支那人の好む所にして、大抵は我

が國より輸入を仰ぎ、その鮑、刻昆布、海苔、寒天の如きは、乾豕と共に五色菜と稱へ、國人貴重の食饌に供す。

礦物は、石炭、鐵の鑛層、本部の到る處に分布し、石炭は、四川省を始め、直隸、山西の二省に最も多く、鐵また直隸、山西、湖南、山東、四川の諸省に豊かなれども、これ等は西洋諸國に於けるが如き器械的採掘法未だ行はれざるが故に、現時直隸省の開平炭坑と、その他の數箇所とに採行せるのみ。銅は中部、南部の諸省に産すれども、猶供給足らずして、我が國よりの輸入多し、その他、滿洲、新疆省、西藏には、多少の金、銀を産す。また、この國に古來有名なるは、四川省の鹽、井鹽、泉にして、これより多量の食鹽を製す。

工業は、南部に最も盛んにして、廣東省の彫刻物、諸細工物、福

建省の繡縫品浙江省の織物江西省の陶磁器江蘇浙江廣東
 諸省の扇など皆名高く漆器抄紙は製法舊式なれども製出
 甚だ盛大なり又西藏には佛像佛具及び金屬香木を以て作
 りたる製品精巧を極む。

外國との取引は日本イギリスインド北米合衆國との間に
 最も多く輸出品は生絲絹織物茶等を主としその總価格は
 二億一千萬あり輸入品は綿布鴉片類最も多くその總價格
 は二億六千萬あり我が國との取引は綿油糧豆類砂糖生
 卵等を輸出しその價格は二千七百萬あり輸入品は石炭
 燐寸海産物綿織絲煙草等最も多くその價格は四千三百萬
 圓あり。

現今條約若くは勅令によりて外國との貿易を許されたる

貿易場は上海漢口廣東汕頭天津芝罘重慶鎮江牛莊蕪湖九
 江福州寧波廈門杭州梧州北海江寧瓊州三水宜昌温州蘇州
 三都澳沙市岳州秦皇島吳淞武昌九龍南寧龍州蒙自思茅等
 に限られその他愛琿寶買城張家口にてはロシア人との陸
 路貿易行はる。

我が國と通商條約を結びしは明治四年にして二十七八年
 の戦役により一旦無條約國となりしがその後二十八年四
 月十七日更に下關にて條約を結べり。

國民の總數は四億二千五百萬ありて一方里の平均人口約
 六百人に當るその分布は藩部は皆稀少にして支那本部に
 稠密なることは左に示す如し。

	面積(平方里)	人口(千人)	一方里平均人口
支那本部	二五〇、	四〇七七〇〇、	一、六三〇、
滿洲	六〇、	八五〇〇、	一四二、
蒙古	一八〇、	二五八〇、	一四、
新疆省	九〇、	一二〇〇、	一三、
西藏	七〇、	—	—
青海	五〇、	六四三〇、	五四、

住民は蒙古人種にして、漢族、通古斯族、蒙古族、トルコ族、西藏族、インド支那族に分る。その中、最も多数なるは漢族にして、吾人のいはゆる支那人これなり。この民族の特質として、節儉勤勉、信約を重んじ、團結力堅く、また商機に巧みに、寛優にして猜忌心の少なきことは、たれ人も稱する所なれど、一般に進取の氣象に乏しく、また男子の鴉片煙を喫すると、婦人



鴉片煙を喫せし支那人

部には、至大の勢力を有せり。通古斯族は滿洲人にして、勇武

もの殆ど四百萬人に達し、タイ群島、インド支那、及び北米合衆國の一



支那の婦人

よく騎射に堪へ、古へは北方の強を以て聞えしかど、清朝の祖宗が、この族より興りて、支那を統一せし以來、漢族と混同し、今は習慣風俗共に彼等に同じ。教育の制度は、電信學校、造船學校、鑛山學校、武備學堂、水師學堂等にては、専ら外國の教師を聘して、専門の學藝を教授すれども、國民の教育としては、今猶古風にして、國子監、府學、州學、縣學、家塾等にて、經史

詩文を教ふるを以てその課目となす。言語は、支那語、滿洲語、蒙古語、トルコ語の數種に分れて、國語は統一せず、支那語の如きも、その方言幾種にも分れ、獨り官話のみ、一般に上流社會に通ず。

宗教は、漢族にては、上流社會の一般は儒教を信じ、その他は、大抵佛教、道教を奉じ、又佛教の一派なる喇嘛教は、通古斯族、西藏族、蒙古族に勢力を有し、西藏には、教主達賴喇嘛ありて、無限の權力を有す。トルコ族は大抵回教を信ず、基督教は、今猶多數の信者を有せざれども、舊教最も盛んなり。

政體は君主專制にして、政令の出づる所を内閣と稱し、その政務を施行するため、支那本部には、吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、工部、海軍部、外務の各衙門及び我が國の參謀本部に同じき

軍機所あり、滿洲には、奉天に禮部、戸部、刑部、兵部、工部の各衙門を置き、蒙古、西藏、青海は、北京に理藩院ありて政務を督す。地方制度は、支那本部には、省に總督又は巡撫を置き、その下に、布政司、按察使、道臺、知府等と、外に、漕運總督、河道總督、鹽政大臣、南洋及び北洋通商大臣等あり。滿洲は、各省に將軍、副都統を置き、奉天には、別に府尹ありて、東三省の民政を統ぶ。蒙古は、將軍、都統などを置けども、各部落に藩王ありて、統御の實權を有す。新疆省は、甘肅省に駐在せる陝甘總督これを督し、その下に、甘肅省と合せて一人の巡撫を置く。又、西藏は、喇嘛僧を封じて王となし、駐藏辦事大臣をしてその治を監せしめ、青海は、甘肅省の西寧に派遣せる辦事大臣、部落の庶政を統ぶ。總督、巡撫の配置は、左の如し。

省	總督	總督駐在地	巡撫	巡撫駐在地
直隸	直隸總督 (兼北洋通商大臣)	天津	山東巡撫	濟南
山東			山西巡撫	太原
山西			河南巡撫	開封
河南			江蘇巡撫	蘇州
江蘇			安徽巡撫	安慶
安徽	兩江總督 (兼南洋通商大臣)	江寧	江西巡撫	南昌
江西			湖南巡撫	長沙
湖南	湖廣總督	武昌	湖北巡撫	武昌
湖北				
四川	四川總督	成都		
浙江	閩浙總督	福州	浙江巡撫	杭州
福建			福建巡撫	福州
廣東	兩廣總督	廣州	廣東巡撫	廣州
廣西			廣西巡撫	桂林

陝西	陝甘總督	蘭州	陝西巡撫	西安
甘肅			甘肅巡撫	蘭州
新疆			新疆巡撫	
雲南	雲貴總督	雲南	雲南巡撫	雲南
貴州			貴州巡撫	貴陽

歳入は大抵一億兩にして、主に地租・鹽稅・海關稅・鴉片稅等よりその財源を求め、各省に割りあててこれを集む、されど、各省はその所管の用度金を引き去り、餘分を中央政府に納むる者なるを以て、收支常に相償はず、貨幣は貿易場の取引には洋銀を用ひ、一般の通貨としては、銀兩を以て本位とし、補助貨幣には銅錢・紙幣あり、されど、内地は民間自由の鑄造にかかる、銀塊を以て賣買の用に供するがため、取引は頗る不便を極む。

陸軍は、八旗兵・綠旗兵・練軍・勇兵の四種あり、八旗兵は、漢人・滿洲人・蒙古人を以て編制し、京師を守る者を禁旅八旗、地方を守る者を駐防八旗と稱し、軍旗の色により八部に分ち、通じて二十四旗とし、その司令官に、都統・副都統あり、綠旗兵は漢人よりなりて、各省に分屯し、提督これを率ふ、勇兵とは、事あるの時、募りに應じて、八旗・綠旗を補ふ郷勇を稱す、練軍は、八旗・綠旗より選抜したる精銳なる常備兵なり、されば、以上を通じて、平時は三十萬の兵ありと稱すれども、新式の訓練をなし、新式の兵器を有するものは、その一部分に過ぎず。

海軍は、北洋・南洋・福建・廣東の四艦隊に分ち、北洋水師は直隸總督、南洋水師は兩江總督、福建水師は閩浙總督、廣東水師は兩廣總督に隸し、海軍部衙門各水師を統ぶ、就中、最も精銳な

この支那の交通は、
又、内陸の交通
といふ

る北洋艦隊は、明治二十七八年の役に殆ど全滅せられしかば、今はただ脆弱なる艦艇を有せるのみ。

交通は、南部は舟運を恃みて、完全なる國道の設なきに反し、北部は水運の便に乏しきを以て、陸路は如何なる僻地も、猶車道を開き、又交通の機關たる郵便電信は、都邑村落を連絡し、鐵道は現時僅に北京天津間の蘆津鐵道、天津より山海關に達する榆津鐵道、山海關より牛莊に至る關外鐵道及び上海吳淞間の滌滬鐵道及び山東鐵道の一部等の數線は既に開通し、北京より漢口に達する京漢鐵道は、ベルギイ會社の敷設にかかり、その兩端の一部既に開通し、又ロシアの敷設にかかる、ウラジホストクの北なるニコルスクより西へ滿洲に入り、哈拉賓を經、西北へ興安山脈を横ぎりて、シベリア

鐵道に連絡し、一方には、哈拉賓より南へ分れ、遼陽、海城、蓋平、金州、大連を經て、旅順に至る東清鐵道、並びに海城、蓋平間より分れて、營口に達する牛莊支線は、既に開通せり。漕運の事業は、上海を中心とせる招商局太古洋行、怡和洋行の漁船を首め、我が國の日本郵船會社、商船會社及びイギリス、ドイツ、フランス、北米合衆國等の船舶これに従事し、楊子江、廣東河亦汽船の往來頻繁なり。

郵便は、各開港場に設けてある官立郵便局及び各要地にありて、政府の通信を遞送する官立驛站の外は、皆私設の信局にして、數省と聯絡を通じ、信書の發送に従事す。その組立は、信書に印紙を貼用することなく、ただ發送を依頼すれば、信局は受信者より賃銀を受くる制なれば、不完全なるは免るる能はざれども、迅速正確にその傳達を終へ、敢て遺失等の患なし。

北京は全國の首府にして、人口百八十萬、直隸省の北部に位

北京は、
支那の中心

し、周圍に城壁を繞らし、城内を内城、外城に分ち、内城は府の北部を占め、皇城、王侯の邸宅、各衙門、各國公使館などのある處とす、その南の一帶は外城にして、商店軒を並べ、市況繁華なり、我が國の公使館、郵便局は内城にあり、北京より鐵道は東南に天津に通ず、この沿道は、明治三十三年清國事變の際、各國の聯合軍が行進せし處なり、天津は北清第一の開港場にして、貨物の集散速く、人口九十五萬あり、外國人の居留地を紫竹林といひ、我が國人在留し、總領事館、郵便局あり、天津より、鐵道は白河に沿ひ、河口の塘沽RENGHOUに至り、更に海岸を北へ開平炭坑、山海關に至る、山海關の近傍なる秦皇島は開港場なり、山海關より、東北の地は滿洲にして、遼河の左岸に營口あり、即ち牛莊の開港場にして、我が國へ大豆、豆糟、豆油等を

二、又盛京と
しい、盛京
省の省城

三、吉林省の
省城

輸出し、我が領事館、郵便局あり、遼河以東の地は、日清戦役の結果により、一旦我が國に收め、後また清國に還附したる、いはゆる遼東半島にして、鳳凰廳、海城、蓋平、大連、旅順、金州等は、海洋島附近の海と共に、我が陸海軍の激戦せし處、その中、大連、旅順一帶の地は、ロシアが清國より租借したる地にして、全部を關東省と名づけ、總督府を旅順に置き、總督を以て省内の軍政、民政を統ぶ、牛莊の北なる奉天は、清朝の舊都にして、滿洲第一の都會たり、その東の興京は、清祖發祥の地とす、奉天の東北なる吉林は、毛皮集散の地たり、これより、松花江を下れば、哈拉賓あり、この地は齊古塔CHIKOTAに接し、東清鐵道の線路に當れるが上に、三姓齊々哈爾CHIHARに近きを以て、將來、滿洲の大市場たるべき地なり、齊々哈爾の北なる愛珥AIERまた市況盛

んなり。總じて滿洲には、近時我が國人夥しく在留し、哈拉賓を中心として、東清鐵道本支線に沿ひ、その數既に千人以上に達せり。

天津の南に大運河あり、河は白河、黄河、楊子江の水を引きてなり、南は杭州に終る、往時南方の貢米を北京に致すには、皆その搬路をここに取りしかども、久しく修繕を加へざるがため、今は一部に舟楫の通ぜざる處さへあり、杭州は北なる

蘇州と共に、下關條約により開かれたる開港場にして、杭州蘇州と共にの生絲、絹織物、扇と、蘇州の繻子、繻織品とは殊に名高し、我が國人こゝに在留し、領事館、郵便局あり、この地の一帶は、山麓しく、水清く、近傍の姑蘇山、寒山寺はよく人の傳誦する所たり、蘇州の西北に鎮江あり、楊子江と大運河との會流點に位

人口八十

人口五十

する開港場にして、貿易盛んなり。ここより楊子江を上れば、南岸に江甯あり、いはゆる南京にして、今は開港場となり、我が郵便局あり、城市の大半は嘗て長髮賊に焼かれしがため、風物いたく荒れ果てたれども、都人は風流にして、文筆の盛んなること支那第一と稱せらる。これより長江を遡れば、江岸に米紙の輸出ある蕪湖あり、鄱陽湖畔に陶器、茶の輸出多き九江あり、湖南を流るる瀨江流域の一帶は、茶の産夥し、九江より猶江を上れば、漢口、武昌、沙市、宜昌あり、皆開港場にして、殊に漢口は内地の諸省と水陸の便を有し、又大洋通ひの汽船、ここまで航行するを以て、江岸諸港中にて、貿易最も盛んに、茶の輸出多し、この地及び沙市には我が領事館、郵便局あり、沙市の東南に洞庭湖あり、又西湖といふ湖水の江に注

二五への
の地

ぐ處に、岳州の開港場あり、頗る湖山の景に富む、宜昌より西、重慶までは、江の兩岸、山高く、江流水小に、且つ處々に急流あるにより、船舶の航行危し、重慶は、長江の舟楫極限地なる重要の開港場にして、我が領事館あり、ここより、上海までの航程千五百海里あり、重慶の西なる成都は、山間に僻してあれども、人口約八十萬ありて、市街繁華なり。

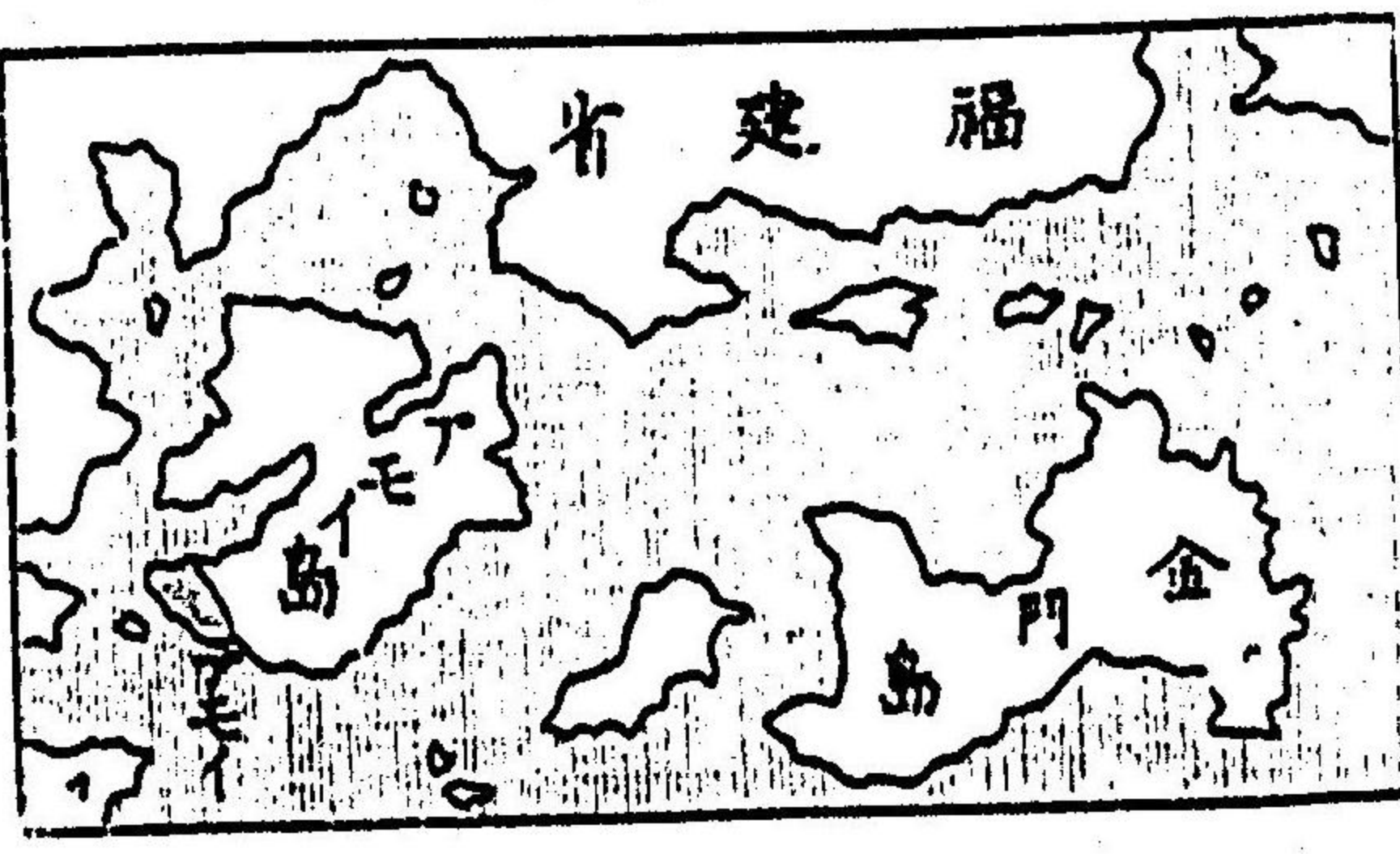
天津より渤海を経て、直隸海峡を過ぐれば、右方は山東半島にして、芝罘、威海衛あり、芝罘は開港場にして、本名を烟臺と稱すれども、外人が北なる芝罘山と誤用せしより、今は、この地の名稱となりぬ、ここに我が領事館郵便局あり、威海衛は重要な軍港にして、北洋艦隊の根據地なりしが、日清戦役の時、打ち破られ、今はイギリスこれを占領す、ここより東、山

二五への
の地

東角の榮城灣は、日清役の際、我が第二軍の上陸せし處、山東角の西南に膠州灣あり、その灣頭の膠州は、附近の一帯と共にドイツの租借地たり、膠州の西、黄河の畔りに濟南あり、更に河を上れば、開封、河南あり、河南の南なる曲阜は、古への魯の都にして、孔廟あり、河南は往時の洛陽にして、史上に名高き遺蹟多し。

上海は、人口五十萬、黃浦江と吳淞江との落合ひ點に位し、生絲、茶、鴉片、金巾の取引盛んなる東洋第一の開港場にして、我が國人多く在留し、總領事館郵便局あり、上海より、黃浦江を下れば、その水の楊子江に會する處に吳淞あり、上海の外港として、今は開港場となり、また上海まで鐵道を通ず、楊子江口より、臺灣海峡までの間には、寧波、溫州、福州、三都澳、廈門の

開港場あり。寧波は數百年以來ホルトガル人と通商せしところとして、往時は繁華なる都會なりしが、今は上海とその位置を換へぬ。古へ我が國よりの遺唐使も、多くはここよりせり。温州は我が國人のいはゆる温州蜜柑の源産地たり。



福州は閩江の北岸に位し、人口六十五萬ありて、市街繁華なれども、江水淺きがため、外國船は下流の馬尾港に泊す。この地もまた、我が國との交通久しく、現時我が領事館郵便局あり。馬尾は軍事上須要の地なるにより、砲臺を築き、艦隊を調し、船政局を設け、又海軍兵學校造船學校等あり。廈門は同名の小島に立

二人口凡そ三十萬イヤ
ス東洋地
限の規模地

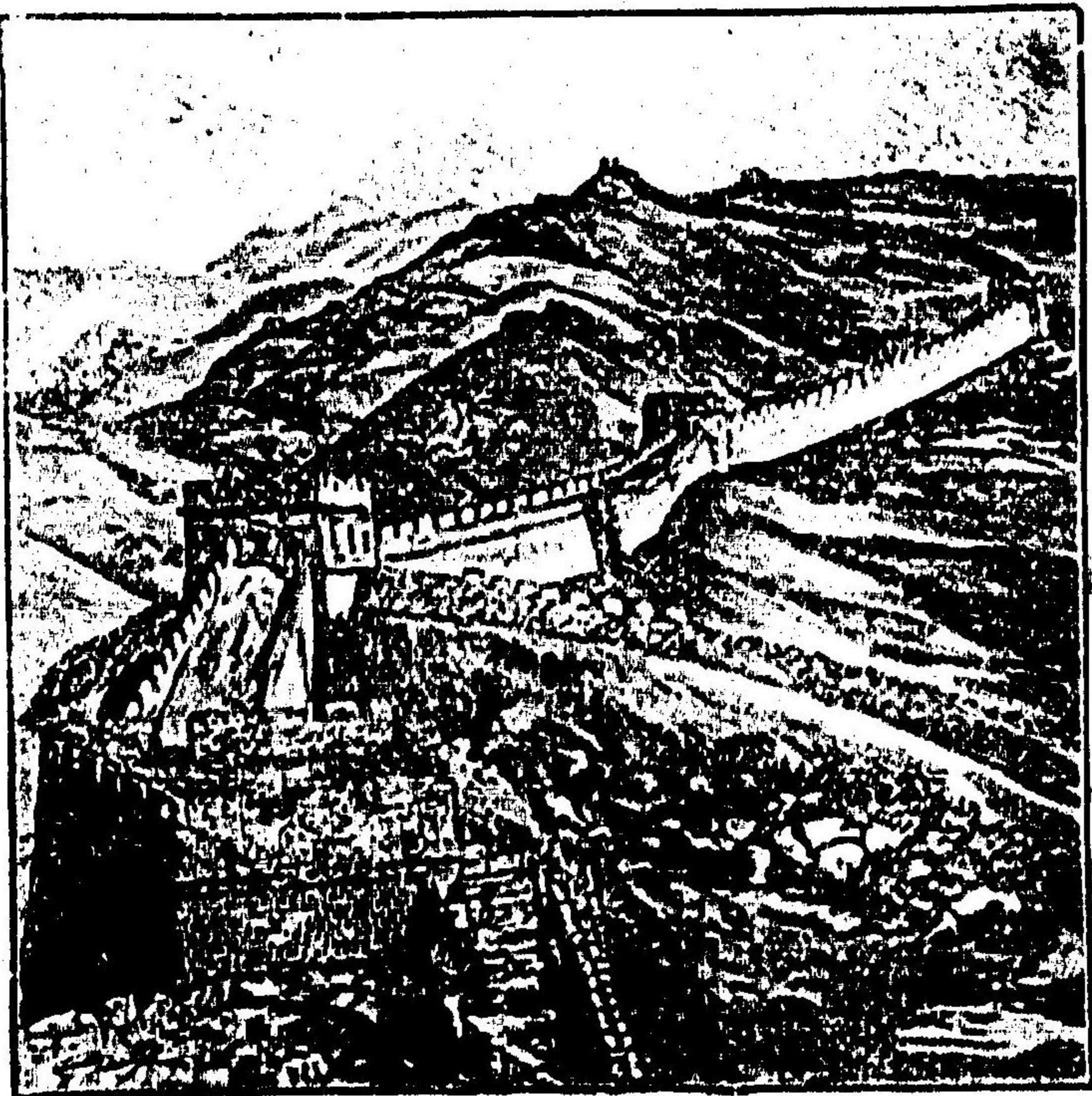


地領スリキイの近附のそび及港香

ち茶砂糖紙の輸出あり、我が國人在留し、領事館郵便局あり。ここより臺灣へ海底電線を架せり。廈門の西南なる汕頭は開港場にして、砂糖の輸出あり。汕頭の西の香港島はイギリスに屬し、その市街を「SHANGHAI」と稱す、亦開港場にして、支那日本及び南洋諸島へ對する貿易の中心に當り、輸出は鴉片砂糖生絲等を主とし、我が國よりは熟銅羽二重石炭燐寸類を輸入し、領事館あり。本島の北なる九龍は、附近の地と共にイギリスに、西なる澳門はホルトガルに屬し、共に開港場たり。澳門の民は、大抵支那人にして、無賴の民、賭博を事

とし、政廳はそれに課税して歳入を補へり。香港より北に珠江を遡れば廣州あり、又廣東と稱す。支那南部第一の開港場にして、人口百萬、主に絹織物、茶、砂糖を輸出し、輸入には鴉片最も多し。廣東の西に三水の開港場あり、更に西に梧州、桂林、南寧、龍州あり。蒙自、雲南、思茅などあり、うちにつき梧州、南寧、龍州、蒙自、思茅は開港場にして、フランス人との間に貿易行はる。香港の西南なる海南島の瓊州は、東京灣に臨める北海と共に、また開港場たり。

北京より西北に張家口に至れば萬里長城あり、張家口はロシア人との開市場にして、磚茶の取引盛なり。この地は蒙古に通ずる要路なるにより、關門を設け、往來を監す。萬里長城は、古へ匈奴の侵入を防がんがために築きし長壁にして、



萬里長城

山海關より西のかた嘉峪關に達し、その延長凡そ七百里、要害の處は二重又は三重に引き廻し、六十間毎に堡寨を備へしものなれども、今は殆ど荒廢に屬せり、しかも大運河とともに

支那の二大奇觀と稱せり。長城以北は蒙古にして、戈壁の砂

主人は砂
漠人といふ

漠その中央に横たはりて、漠南漠北を内外の蒙古に分つ、外
 蒙古の北部に、ウルガ即ち庫倫あり、その北に買賣城あり、ウ
 ルガには西藏より派遣せる喇嘛教の副王駐在して、政治上
 宗教上の實權を握り、喇嘛教の僧徒また二三千人に達し、從
 ひて、佛寺は結構壯麗を極む、買賣城はロシア支那の陸上貿
 易の要區に當り、駱駝隊商によりて、かれの縑紗・金巾・鐵器類
 と、これの茶・羊皮類との交易行はる、その南のカラコルムは、
 成吉思汗の都せし處なり。
 戈壁の砂漠は、新疆省なるタリム河の流域より起り、東は滿
 洲の界に亘る、漠内の一部は、無限の曠野なれども、東蒙古一
 帯は、邱阜平原谷地を混へたる荒野にして、處々に淡湖鹹湖
 を湛へて、遊牧の土人ここに露宿し、また春期には、綠草處々

ウラルは蒙
古語にして
湖の意

によく繁茂し、駱駝及び隊商の率ある馬を養ふに足る。
 北京より、西南に保定・太原あり、渭水の南畔に西安あり、西安
 は漢唐などの都せし古への長安にして、尋ぬべき舊蹟甚だ
 多し、西安の西北なる咸陽は秦の古都にして、近傍に阿房宮
 の遺趾あり、西安より西北、黄河の邊に蘭州あり、更に西北に
 瀾州あり、附近の玉門關は、古へのいはゆる西域に通ずる要
 路たり、新疆省の一帶は、天山山脈によりて、天山南路・天山北
 路に分れ、北路には伊犁河ありて、西にバルカシ湖に入り、南
 路にはタリム河ありて、東にロプノールといへる湖に注ぐ、そ
 の流域は、土肥え、田圃開け、人民また稠居し、北路のウルムチ、
 即ち迪化、クルヂヤ即ち伊犁と、南路のヤールカンド・カレガ
 ルとは、皆中央アジアに通ずる要區に當れり、總じて、新疆省

二支東トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル

五支東トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル

はもと南路を回疆北路を新疆といひしが、嘗てロシアに占領せられ、新疆條約の結果、再び清國に復せしより、その防備を嚴にせむがため、新疆省を新設したり。

西安より西南のかた漢中を過ぎ、いはゆる蜀の棧道を経て、成都に出づる沿道は、風光明媚にして、奇峯聳え、清流その麓を繞る處、恰も一幅の墨畫を展ぶるに似たり。成都より西は、山また山の峻道を踏み、金沙江を渡れば、西藏にして、サムガ
一河、畔に拉薩あり、この地は、四方の商民多く集り、商工業盛んに、殊に喇嘛教の法王達賴喇嘛は、法座を近傍のボータラ
に安定せるを以て、寺院堂塔到る處に建ち、人口六七十萬の中、寺中の僧は、實にその三分の一を占め、住民一般に佛を信ずること甚だ厚し、西藏の東北に青海と名づくる鹹湖あり、

その附近の地は青海にして、住民多くは牧養を主とす。

(三) アジア、ロシア

アジア、ロシアは、アジアの北部全體を稱す。昔ロシアの領土にして、シベリア中央アジア・ユーカサスの三區に分つ。

シベリア

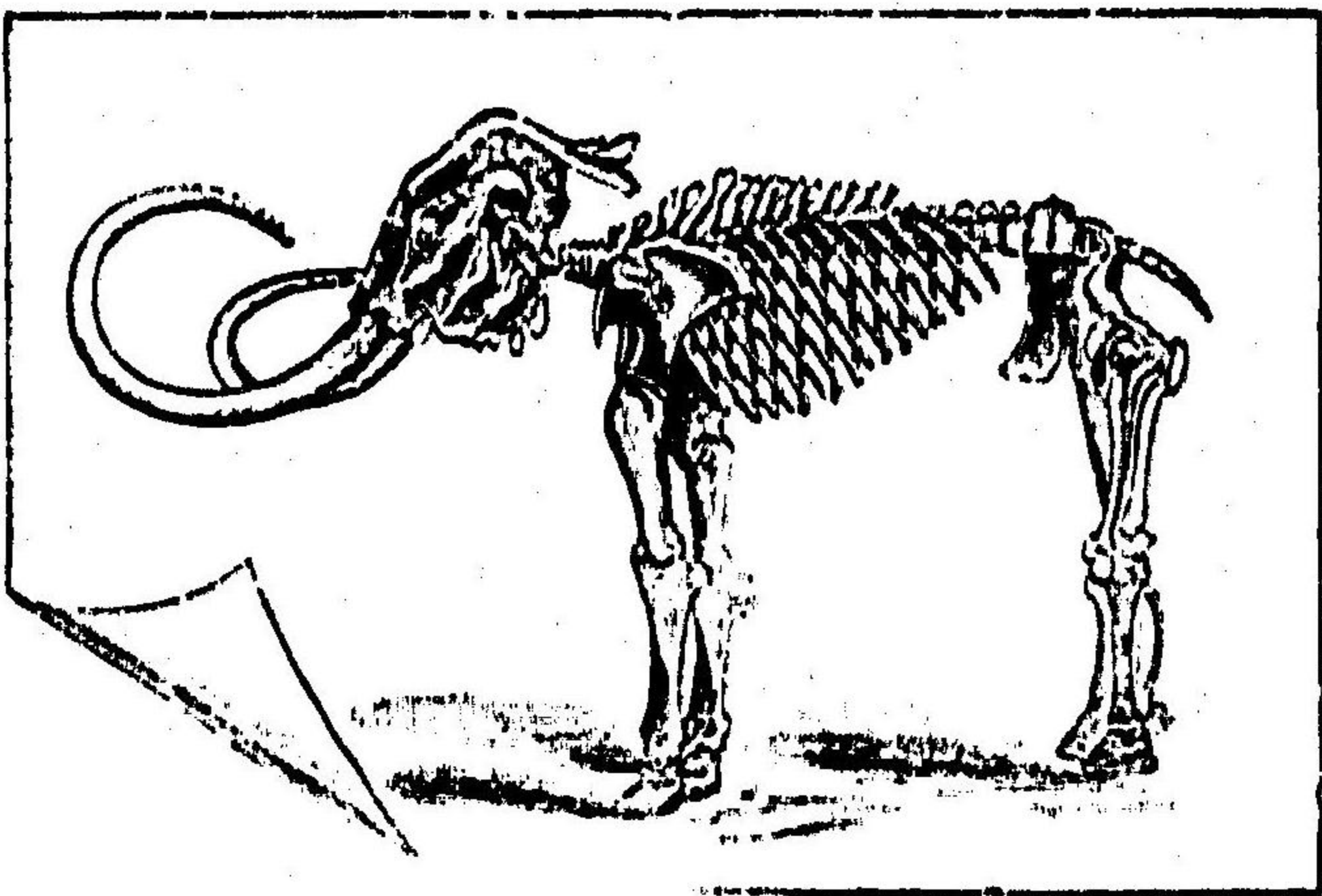
シベリアはアジアの北部全體を占め、面積我が國の三十倍に近し、域内は、トボルスク・トムスク・エニセイスク・イルクーツクの四省、ヤクーツク、後バイカル・アムール沿海の四州及びサガリオン島の九部に分れ、行政上、トボルスク・トムスクの二省は、本國の直轄に屬し、エニセイスク・イルクーツク、後

五支東トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル
ハ支那トル

バイカル・ヤクーツクを東部シベリア管區、アムール・沿海・サ
 ガリオン島をアムール管區に屬せしめ、各管區には總督あ
 りて、一切の軍政・民政を總へ、省州には知事、サガリオン島に
 は長官を置く。

兵備は、陸軍にありては、東部シベリア管區をイルクーツク
 軍管、アムール管區をアムール軍管として、その司令部を總
 督所在の地に置き、トボルスク・トムスクの二省は、中央アジ
 アに屬し、その司令部はオムスク(OMSK)にあり、外に、コザク兵(KOSSAKI)の分
 團ありて、各軍管に分隸す。海軍は、ウラジホストク(URAZHISTOK)に鎮守府
 を置き、シベリア艦隊、東洋分遣隊、義勇艦隊これに屬す。

地勢は東南部に山岳多く、漸次深き森林となり、次第に西北
 に低く、北部に傾きては、ツィンドラ(TUNDRA)即ち苔原をなし、西北に



骸骨のモムマ

傾きては豊沃なる黒土層の平原をなして、ウラルの連嶺そ
 の西境を限り、オビ・エニセイ・レ
 ナ・黒龍江等の四大河、城内を流
 る。生産物には、黒土層地方の燕
 麥、裸麥、森林地方の松樅等の良
 材、諸種の毛皮獸、苔原地方の地
 中に埋没せる、(MAMMOTH)ムムマと稱す
 る古代の大象、ウラル山の白金
 金、アルタイ山の金・銀・鉛、後バイ
 カル州の沙金、イルクーツク省
 の黒鉛、アムール・沿海二州の沙
 金など、無限の富を有すれども、氣候の大陸性なると、緯度の

高きとにより、苔原地方の如きは、冬期人畜の生活に適せず、されば、本國政府は、夙にこの拓殖に注意せるにも拘はらず、人口甚だ稀少にして、土著人、及びロシア人を合せて五百七十萬に過ぎず、中にも、土人はその數少なく、生業もまた、大抵牧畜・漁獵を主とし、官吏地主或は農商採鑛など、あらゆる事業は皆ロシア人の經營にかかり、國の南部及び諸河の流域に分布せるロシア人は、全人口の八分の七を占む。

内地の商業は、處々に年市を開きて、内地の生産物とロシア支那のとを交換し、外國貿易場は、ウラジホスト、ク・ニコラエフスクを主とし、キヤクタ亦開市場たり、道路は、冬期積雪多きにより、土人は犬・馴鹿・馬の輓ける橇を用ふれども、官道は度く平かにして、馬車の往來自由なり、されど、政府は猶この國

の利源を開發し、併せて世界的生産物の交換に對する、公道を設くる必要を認め、終にシベリア鐵道を敷設するに至れり。

この鐵道は、ウラル山麓のミヤスクより起り、オムスク・トムスク・クラスノヤルスクより、ウヂェンスク・イルクーツクを經、バイカル湖畔を廻り、チタ・ストレタンスクより、黒龍江の左岸に沿ひ、ブラゴージェンスク・ハバロフスクに至り、南に折れて、烏蘇里江の右岸に沿ひ、ウラジホストクに達する、延長四千七百哩の大鐵道にして、その大部は既に敷設を終へ、ただバイカル湖畔と、黒龍江畔との線路のみ、夏期汽船を以て、その間を連絡せしが、遂に支那と條約を結び、その版圖を通じて、鐵道を敷設するの承諾を得しより、黒龍江線を捨て、

烏蘇里線のニコルスクより分岐し、滿洲を横断して、チタの東のカイダロフスカヤにて、シベリア鐵道に合する千八百八十哩の東清鐵道を敷設し、その大部既に竣工せり。抑、ウラジホストクとセント、ペートルスブルグとの間は、約六千八百哩にして、或は舟路をとり、或は鐵道によりてするも、凡そ百二十日を費さざるを得ず、然るに、この鐵道にして完成せば、遅くとも、二十日乃至二十五日間を要するに過ぎざるを以て、その全線の開通したらむには、我が國よりするも、三十日以内にて、ヨーロッパに到るを得べきなり。ハバロフスクは、アムール管區總督所在の地にして、黒龍江の右岸、烏蘇里江の合流點に位し、ウラジホストクと汽車を同じ、河流によりてニコラエフスク、ブタゴイエスタ、ンスク

シベリア
の河と云ふ

と汽船の便あるを以て、東部シベリア屈指の貨物集散地たり。ウラジホストクは、GREEN THE GREATペートル大帝灣に臨み、港内は、十二月より、四月中旬に至るまで氷結すれども、將來は、陸海を接續する世界的交通の要區に當れり。我が國より穀類、綿布、雜貨類を輸入し、我が國の貿易事務官あり。本港はまた、軍事上唯一の要鎮なるが故に、要塞を築き、砲臺を設け、鎮守府火藥庫、海兵團、船渠、貯炭所等の設備よく行き届き、武装せる商港なりとの一語、その實景を寫せり。北なるニコルスクは、東清鐵道の東端に當れり。ニコラエフスクは、黒龍江口の左岸に位する開港場なれども、貿易盛んならず。黒龍江は、流程千二百餘里、下流は河幅廣き所十五町ありて、水量多く、汽船は九百里の間を昇降して、漕運の便に富めども、大抵十月中旬より

三〇三
押本島

五月中旬に至るまで氷結す。河口の東なるサガリーン島に
 は、我が國人の出稼して、漁業に従事する者多く、アニワ灣頭
 のコルサコフ(KORSAKOVA)に我が領事館あり。ブラゴージェチンスクは
 黒龍江とゼイヤ河との合流點に位し、黒龍江汽船往復の中
 心なると、ゼイヤ河の上流に金産地あると、且つは愛琿(アイハ)に近
 きとにより、東部シベリア貿易の中心をなし、市況の賑やか
 なること東部第一たり。ここより、小形の汽船に乗り換ふれ
 ば、十日にしてストレテンスクに至る、其西のネルチンスク
 ナタは、ともに地方の要都なり、イルクーツクは、東部シベリ
 ア管區總督所在の地にして、バイカル湖の西南に位し、毛皮
 の取引盛んなり。府の東南なるキクタは、買賣城に據し、毛皮
 茶の取引あり。イルクーツクの西北なるクラスノヤルスク

中央亞細亞

中央アジア

は、北なるエニセイスクと共に、また毛皮諸礦物の貿易あり。
 クラスノヤルスクの西なるトムスク・トボルスクは、オビ河
 の流域に立ち、トムスクは沙金・毛皮を以て著はる。

二〇〇
五〇〇
人口
七〇〇
口八
十萬

パミール臺地の西北一帯を中央アジア(CENTRAL ASIA)と稱し、地の廣さ、我
 が國に十倍すれども、人口は俄にその四分の一に充たず。全
 土スタブ地方(THE STEPPES)トルキスタン(TURKISTAN)後裏海(THE CASPIAN)に分れ、アムー、ダリアの
 流域には、ボーカーラ(BOKHARA)・キウ(KHIVA)の二國あり。
 地勢は、東部南部に山岳多く、漸次西北に低き草原をなし、裏
 海とアラル海との間は、荒蕪の高原にして、アムー、ダリア、シ
 ル、ダリアの流域、地味肥沃なり、氣候は、寒暑共に強く、且つ降
 雨少なく、空氣常に乾燥す。國土生産力に乏しくして、水灌あり

る處、値に穀類等を産し、草野には、馬、駱駝、羊等を養ふに過ぎず。住民はトルコ族多く、大抵回教を信ず。行政は、スタフ地方にスタフ總督あり、トルキスタンにトルキスタン總督あり、又、後裏海は後者の支配を受く、ポーカラ・キツは共に獨立の侯國なりしが、今はロシアに屬し、トルキスタン總督の支配を受く。

オムスクは、スタフ總督駐在の地にして、シベリア鐵道の線路に當れり。(TASHKENT) タシケントは、トルキスタン總督駐在の地にして、ヘルシア・インドより、ロシアに輸入する貨物の通路に當り、絹織物、革皮を産す、この地に帖木兒の墳墓あり。現時、後裏海鐵道は、裏海の東岸より、東にメルツ・ポーカラ・サマルカンドを経て、ここまで開通し、又支線は、メルツより南に、ヘラト

高加索

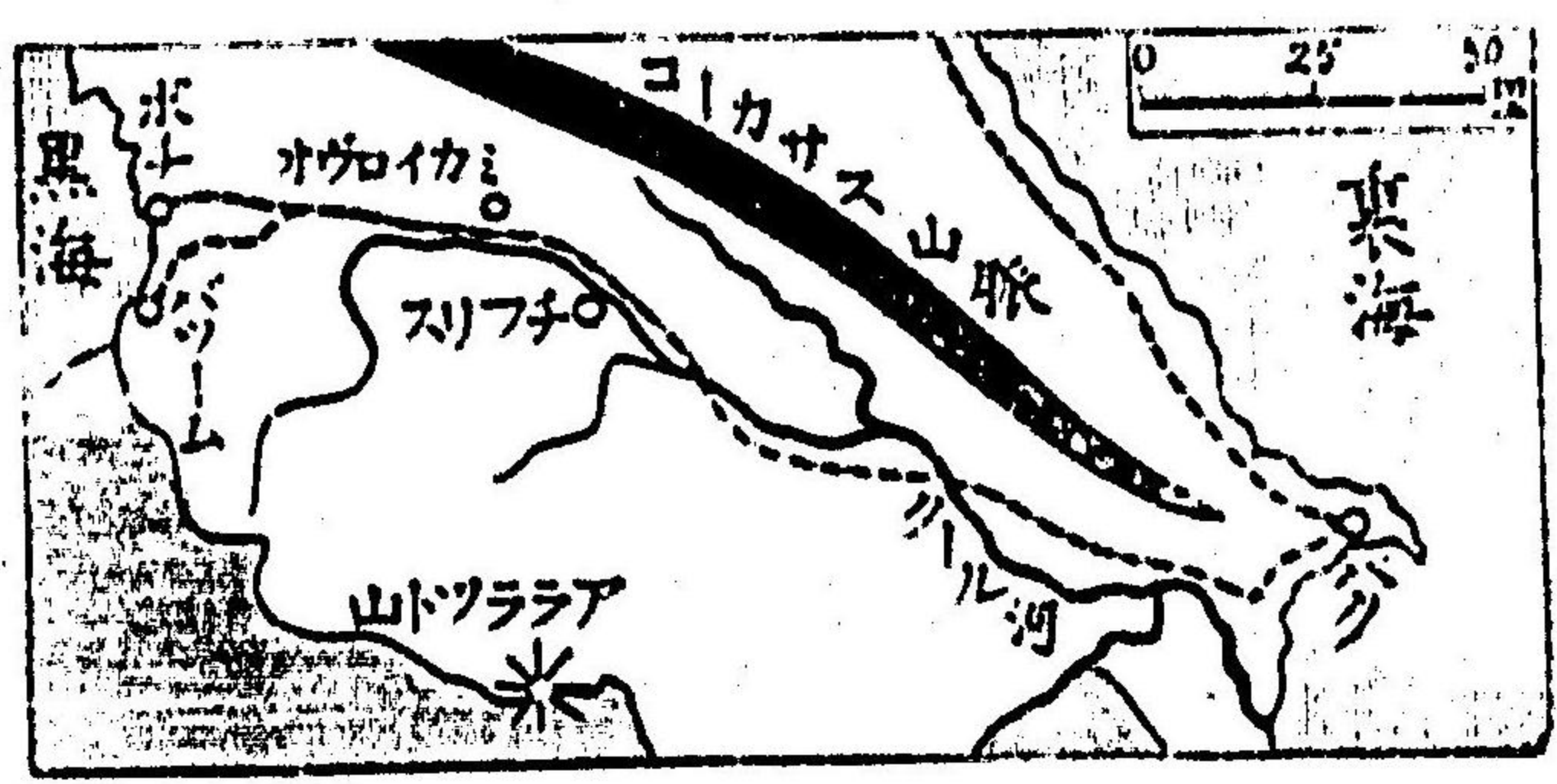
の近傍まで敷設せらる。サマルカンドは回教々徒の靈地にして、往時帖木兒の都せし處なり。

コーカサス

黒海と裏海とを連続せる陸橋をコーカサスといふ。コーカサス山脈によりて、(CAUCASIA) 内部、外部に分かる。

コーカサス山脈中央に横たはるを以て、大抵山地なれども、内部は草原よりなる。氣候は外部の地、冬期暖くして、冬霜の害少なく、従ひて、農産、牧畜行はれてあれども、内部は、大抵大陸性なり。地方の富源は、實に石油にして、世界に産する一個年の石油總額五十億ガロンにつき、其半ばはロシアより産出し、殊に裏海瀕せしるバクの附近よりは、多量に湧出し、コーカサス鐵道は、それを油槽車に移して、これをチフリスの

5012 571 111



道鐵メサカーコ

んに、メルシアとの取引あり。バクは軍港にして、裏海艦隊の根拠地たり。

西なるミカイロフに致し、これより鐵道に沿ひ、輸送管線を通過して、黒海の海岸なるバツームの貯油所に注流し、管にコーロバ及び我が國などへ輸出するのみならず、該地方の汽車を始め、裏海・黒海の汽船の如きも亦これを燃料とせり。

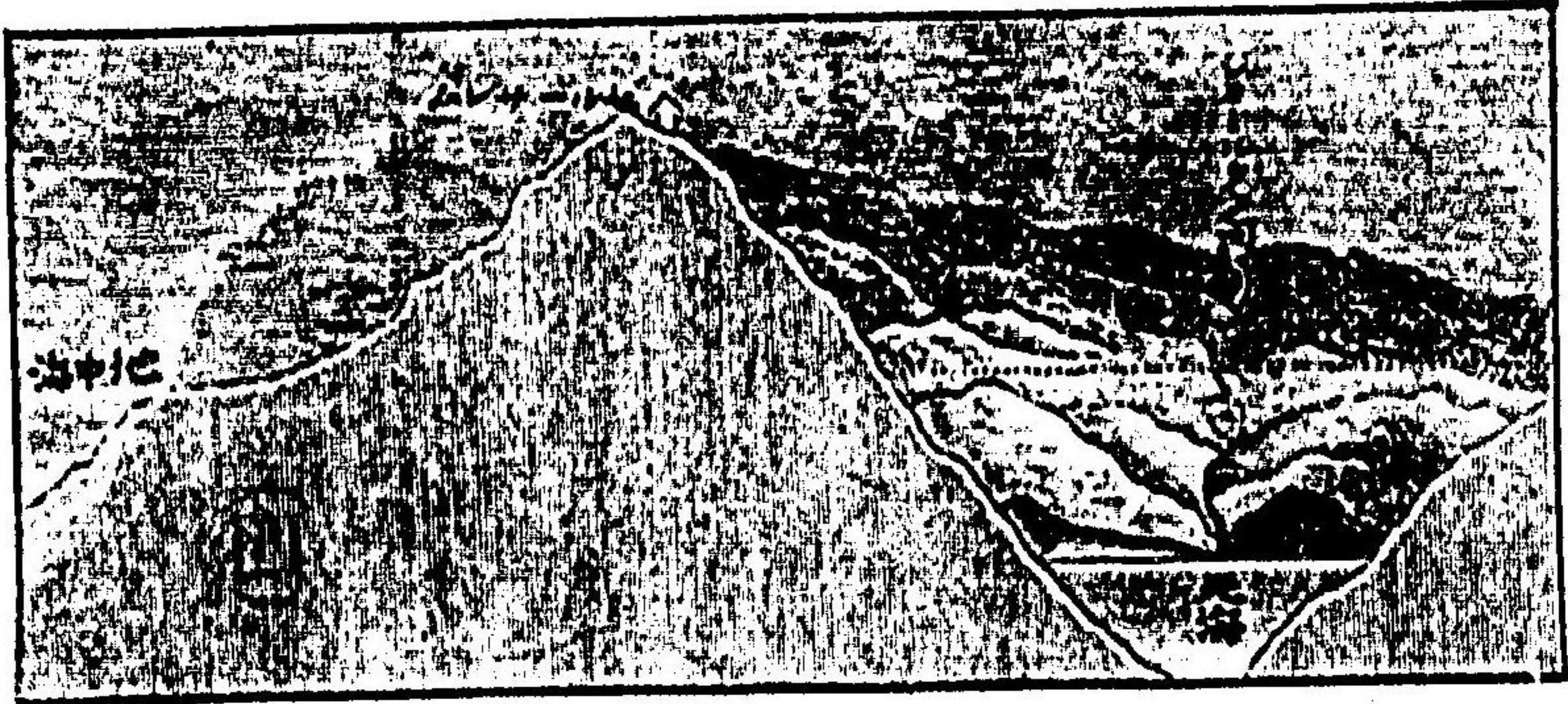
カプリスは外部コーカサスの都會にして、クル河の上流に位し、コーカサス總督ここに駐在し、商工業盛

其國土并

(四) アジア、トルコ 附サマソ島

アジア、トルコは、アジアの西部を占む、全土ヨーロッパに樹し、面積八萬餘方里、人口千六百餘萬あり。

東南部のメソポタミアは、タイギリス・ユーフレネーテズの兩河域に屬して、肥沃の平野なれども、その北部は、エルブールズ・ザグロスの諸山脈のび亘りて、アルメニア・クルディスタン・ザグロス (ZAGROS) の高原をなし、西の方、小アジア半島のアナトリア高原につづき、また地中海の東岸、シリアの地、レバノン・シナイ、パノンの並行山脈、南北に亘りて、シナイ半島を起し、その東麓は漸次低く、ゴールの窪地となり、猶南に陥落して死海に



死海の低面

至り、世界第一の低面をなせり。
 氣候は概ね大陸性にして、シリア・メ
 ソポタミアは夏熱殊に強く、アルメ
 ニア高原は冬寒頗る厳し、農産は
 穀類・綿・無花果・葡萄等を主とし、牧養
 また盛んにして、アンゴラの羊毛、毛
 氈は、殊に世上に名高し、住民はトル
 コ族多数を占め、ギリシ族・アラビア
 族・ユダヤ族などを交ふ、信教は、ギリ
 シ族の基督教を奉ずる外、大抵回教
 を信ず。

バグダッドはタイグリス河畔に位し、
(BAGDAD)

このシヤット
 の間はアラビア
 の間に於いて

ヘルシア及び黒海の沿岸地方と、隊商貿易の行はるる處た
 り。この南にバビロン(BABYLON)、北にニネヴ(NINEVEH)の城址あり、タイグリス
 ユーフレータスの兩河は、俗に双兒河と稱し、下流の落合ふ
 處より、河名をシヤット(SHAT EL ARAB)、エル・アラブといふ、アンチレバノン山
 脈の東南なるダマスカス(DAMASCUS)は、國內第二の都會にして、隊商貿
 易盛んなり。この西海岸のベール(BEIRUT)は、地方主要の輸出
 港とす。その西北なるサイプラス島はイギリスに屬す。ペー
 ルトより南は、いはゆるパレスティン(PALESTINE)にして、フェニシア(PHENICIA)・ユ
 ダヤの繁華は、既に遠き過去に屬し、ユダヤ人、即ちジュー(JEWS)の如
 きは、今ははや、亡國の民として世人に厭忌せらるれども、當
 ては、商業に、將た技藝に、世界に先鞭をつけたる民族とす。ゼ
 ルーサレム(JERUSALEM)は、地中海と死海との分水界に立ち、往時ユダヤ

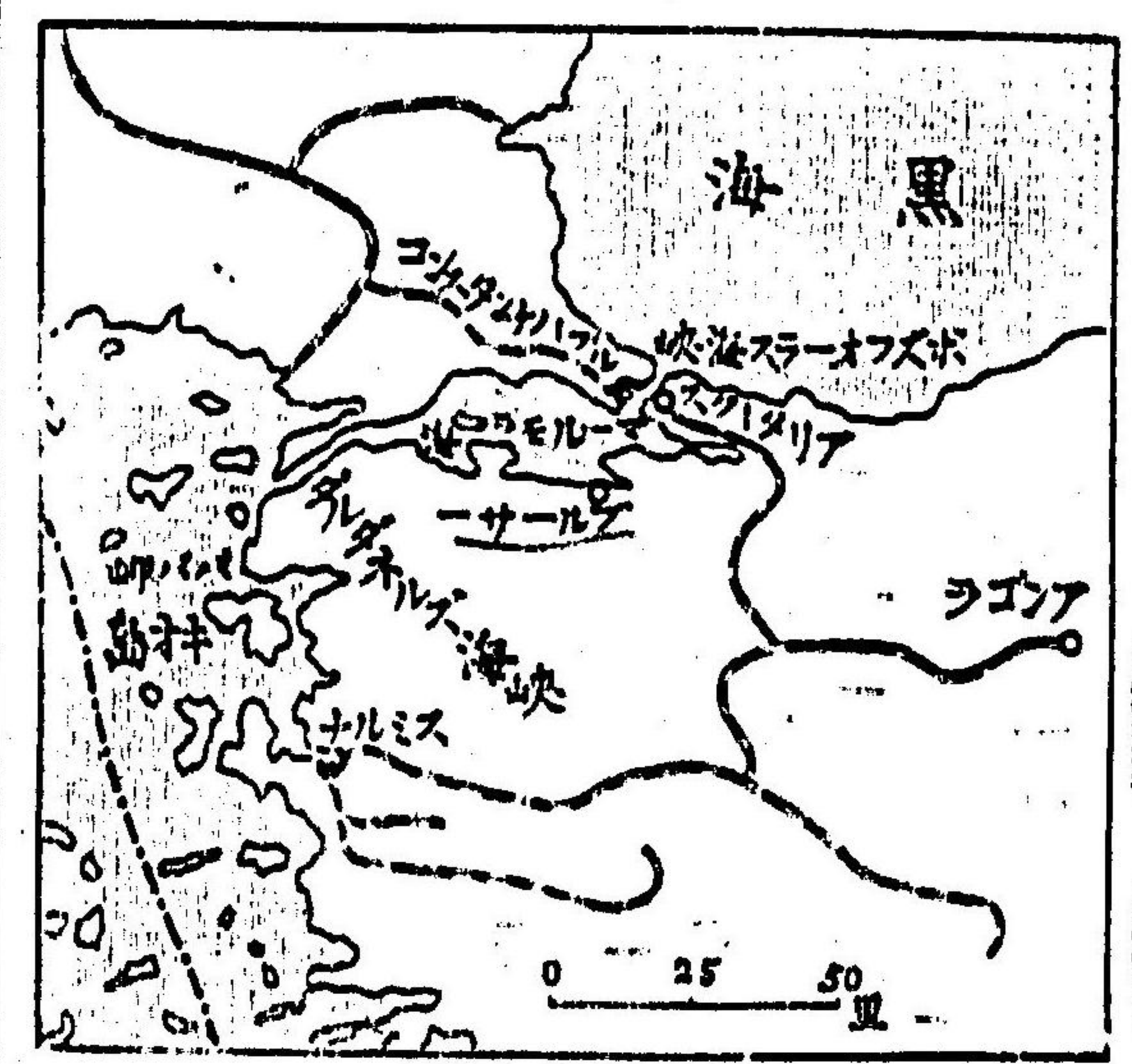
國王の都せし處にして、今も猶市況賑はしく、その郭外に、耶蘇基督の墳墓あり。その南なるベスレヘムは基督の降誕地



山イナレ

たり。死海は小湖にして、排水口のなきと、蒸

發の劇しきとにより、頗る鹽分に富み、嘗に魚介の産せざる



小アリア半島の西都

のみならず、その水濱は、地中海より千三百尺の下方にあり、死海の南なる、シナイ半島はエジプトに屬し、そのシナイ山はモゼスが神より十戒を授かりし處なりと傳ふ。南なるアラビアの西岸に、メデナ・メカあり、メデナはマホメットの墳墓のある處、メカはマホメットの生れし處なるを以て、回教々徒の諸國より參詣するもの、年に十萬に下らず。エルサレムは國內第一の都會にして、多島海に臨み、ヨーロッパ諸國の船舶寄港し、隊商貿易盛んなり。

小アジア半島西部の海上には、許多の島嶼、亂雜に散點して
 ギリシに連なり、恰も飛石の如き有様をなす、その中のサ
 ム島はもと、トルコ領なりしが、西曆千八百三十二年、イギリ
 ス・フランス・ロシアの保障により、トルコ國主權の下に獨立
 せし公國にして、面積三十方里、人口五萬五千あり。

アラビア

(五) アラビア 附オーマン王國

アラビアはアジア、トルコの南に突出せる世界第一の半島
(ARABIA)
 にして、イギリス領、トルコ領を除くの外は、皆酋長の支配に
 屬し、その中、オーマン王國(OMAN)最も廣く、面積一萬二千方里、人口
 百五十萬あり。

内地は、一帯の砂漠性高原よりなり、周圍に山岳を繞らし、湖
 沼なく、河流なく、雨水時に到れども、皆砂中に浸潤す、氣候は
 大抵暑く、又無雨帶に屬するを以て、空氣常に乾燥し、沿海地
 方殊に劇し、されど、中央の高地は四時暖くして、國の樂土と
 稱せらる、産物はアラビア腹膜、珈琲殊に名高く、中央のネジ
 ド膏地は馬路駝の牧養盛んに、アラビア馬は古來國の特産
 たり、住民はアラビア族最も多く、大抵牧畜を主とし、又掠奪
 を事とする蠻民あり、宗教は概ね回教を奉
 る。



マスカットはオーマン國の首府にして、ヘル
(MASCAT)
 シア灣に臨み、貿易盛んなり、アデンは、アデ
(ADEN)
 ン灣に臨める海港にして、氣候暑く、平時の

用水は、僅に雨水を貯へて、飲料に供する不便はあれど、東洋航路の重要な石炭積入所に當るを以て、船舶多く寄港す。本港の輸出にて、盛況を呈せるものは食鹽にして、その品質はヨーロッパ産に劣らず。全區イギリスに屬し、紅海の咽喉を扼するペリム島と共に、ボムベー政廳これを管す。

(六)イラン地方

パミール臺地の西南をイラン地方と稱し、ペルシア・アフガニスタン・ペルーチスタンの三部に分る。

ペルシア

ペルシアはイラン地方の西部を占め、面積十萬餘方里、人口

九百萬あり。

九百萬あり。

地勢は北・南・西の三方に山岳を繞らし、中央より東は、砂漠性の高原、廣く全土の三分の二に亘り、氣候從ひて大陸性なれども、國民農事を勉むるにより、穀類、鴉片、煙草等を産し、馬、駝、羊の牧養亦行はる。國人工藝に巧みにして、絹布、毛氈、肩掛等の製織は、古來最も著名なり。ペルシア人は、大に禮儀を重んじ、詩歌、音樂を嗜みて、優美の風あれども、忍耐の氣象に乏しく、又奢侈に流れ、婦人の如きは、貴賤となく、身に絹帛を纏ひ、富める者は、襪衣にも、猶絹布を用ふ。政體は、君主專制の獨立國にして、國法は、悉くコーランの經典によりて編制せられ、國民は、國王即ちシャーを以て、マホメトの教文を實行する代表者と信ぜり、兵備は二萬五千の陸軍常備兵と、海軍に二

Shah

隻の小艦とあり。

テヘランは國の首府にして、エルブールズ山脈の南麓に位

(TEHERAN)

し、人口二十五萬あれども、夏期は、居民裏海の濱に暑を避け、

市街淋し、イスバハンは國の舊都にして、その南にあり、その

(ISPAHAN)

他、西北地方にタプリズあり、東北地方にマセドあり、後者は

(TAPRIZ)

(MASHAD)

回教々徒の靈地として知らる。

アフガニスタン

アフガニスタン

アフガニスタンはヘルシアの東に位す、ヒンヅー、クシ、山脈

(AFGHANISTAN)

は、城内を東北より西南に亘りて、地勢高峻且つ砂漠性なれ

ども、河流の域は、土肥え、果穀の産豊かに、牧畜亦甚だ盛んに

して、羊毛の産多く、工業從ひて發達し、カンダハルの絹織物

の如きは精巧を極む、政體は君主專制にして、アミール、即ち

(AMIR)

二座山大王の館を古

王は國政を行へども、イギリスの干渉を受くることあり、カブールは國の首府にして、カブール河に臨み、印度に通ずる要路に當れり、ヘラト及びカンダハル等の都會は、西部南部に於ける貿易の要區をなし、ヘラトには、回教寺院の宏大なるもの多し。

(KABUL)

(HERAT)

(KANDAHAR)

北北路新垣

ペルーチスタン

アフガニスタンの南をペルーチスタンとす、地勢は四周に

(BALUCHISTAN)

山岳を繞らし、内地は處々に山地あれども、大部は廣大なる

砂漠性の高原よりなり、寒暑共に強く、物産また甚だ少なし、

全部イギリスの保護に屬すれども、獨立ペルーチスタン部

(INDEPENDENT BALUCHISTAN)

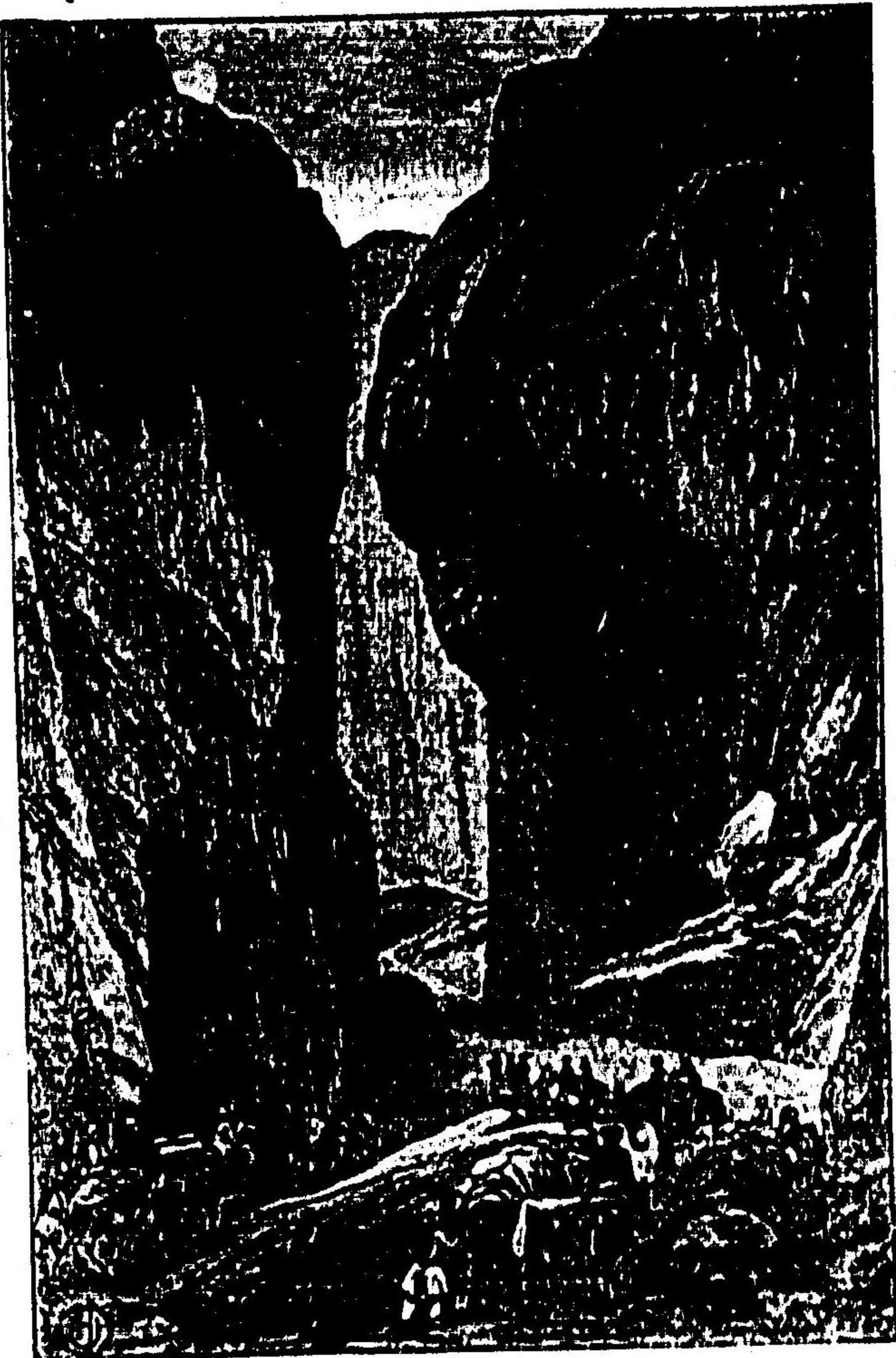
イギリス領ペルーチスタン部、クエッタ及びボルラン部に分

(BRITISH BALUCHISTAN)

(QUETTA AND THE BOLAN)

れ、外に、インドの境に獨立の土蕃地あり、獨立ペルーチスタ

ン部は國王、即ち汗(KHAM)ケラトにありて、これを治めてあれども、インドより派遣せる、代理官との協商によりて政務を決す



旭ンラーボ

るを以て、獨立は有名無實たるに等し、ク(K)ラカ、及びポーラン

部、また純然イギリス施政の下にあり。

ケラト(KELAT)は國の首府にして、インドよりベルシアに通ずる要路に當る。ク(K)ラカ(KALKA)また繁華の都會にして、イギリスよりの派遣兵ここに駐在す。ク(K)ラカより、インドに通ずるポーラン越(POLA PASS)は、北なるカイバル越(KHYBER PASS)と共に、名高き坂路にして、ポーラン越には現時鐵道の設けあり。

印度

(七) 印度 附ネポールネータータン

インドは古への所謂天竺にして、アジアの中央より、印度洋に突出して三角形の半島をなし、セーロン島と共に、面積二十八萬方里、人口約二億九千萬あり、全部イギリスに屬す。

インド

ヒマラヤの高地帯は、下層には、熱帯の植物繁茂し、七千尺より一萬二千尺の間は灌木を生じ、漸次一萬五千尺の間は、雑草藜苔となり、それより以高は、氷雪を以て蔽はる。連脈の南部は、ガンデーズ河・インダス河・ブラマプートラ河の三大流域よりなれる平原にして、大部は、土肥え、農産夥しく、インドの寶庫と稱せらる。平原の南は、土地再び高まり、(VINDHYAS) ヴィンディヤ東部をなし、その黒土層は、よく綿の栽培に適す。又東西ゴーツ山脈以外の地は、急にコロマンデル・マラバルの兩海岸に傾き、豊沃なる平原をなせり。

氣候は、土地の高低甚だしきを以て、處により著しき差異はあれども、大抵濕乾熱の三期に分れ、三月より六月までは熱

さ強く、六月より十月までは、西南氣候風を受けて、降雨多く、十月より三月までの、東北氣候風の時期には、雨量最も少なし。物産は、ヒマラヤ高原地方及び東西ゴーツ山脈には、(TEAK) ナイロ樹格樹等の森林よく茂り、農産は米穀綿鴉片甘蔗藍茶麻等の産に富みて、優に輸出品の九割以上を占め、殊に綿は、北米合衆國・エジプトと共に世界の三大綿産國と稱せられ、其量、年額四億五千萬封度^{バレル}に達す。動物は象獅子虎犀水牛等を始め、鱈魚蛇蝎等あり。礦物は、鐵石炭より、金銀・金剛石・諸寶石等の産あり。内地の商業は、年市を開きてヘルシア・中央アジア等と取引し、外國貿易は、イギリス・支那を主とす。輸出品は綿・米穀・鴉片・藍・茶・麻最も多し、我が國との取引は、綿の輸出を主とし、輸入は石炭・羽二重・燐寸最も多し。

住民は種々の民族を交ふれども、その七割許は、コーカサス人種のヒンヅ^{HINDUS}族にして、體格強大、皮膚黒褐色を帯ぶ。概ね農を事とし、禮儀を重んじ、性温良なれども、固く貴賤の階級を守り、互に婚嫁せず、交際を結ばず、また深くインド教を信じ、迷信者の中には、ガンデース河畔の靈地を巡禮して俄死し、或は寺院に斷食して死を待つを榮とするなどの弊風あり、されば、イギリスは、西曆千八百五十八年に、この地を領せし以來、深く本土の拓殖に意を注ぎ、河運河を疏して舟楫の便を開き、陸には約貳萬五千哩の鐵道縱横に走り、また學校を建て、教育の普及を圖れども、猶讀み書きを能くせざるもの多く、學齡兒童の就學者も、百分の二十二に過ぎず。セーロン島の民は、厚く佛教を尊奉し、無教の伽藍、今も猶舊觀を改

めず。

カルカッタは、大總督所在の地にして、人口百萬、ガンデース河(SALUTTA)の三角洲に位し、市街の建物は皆美麗にして、インドのロン

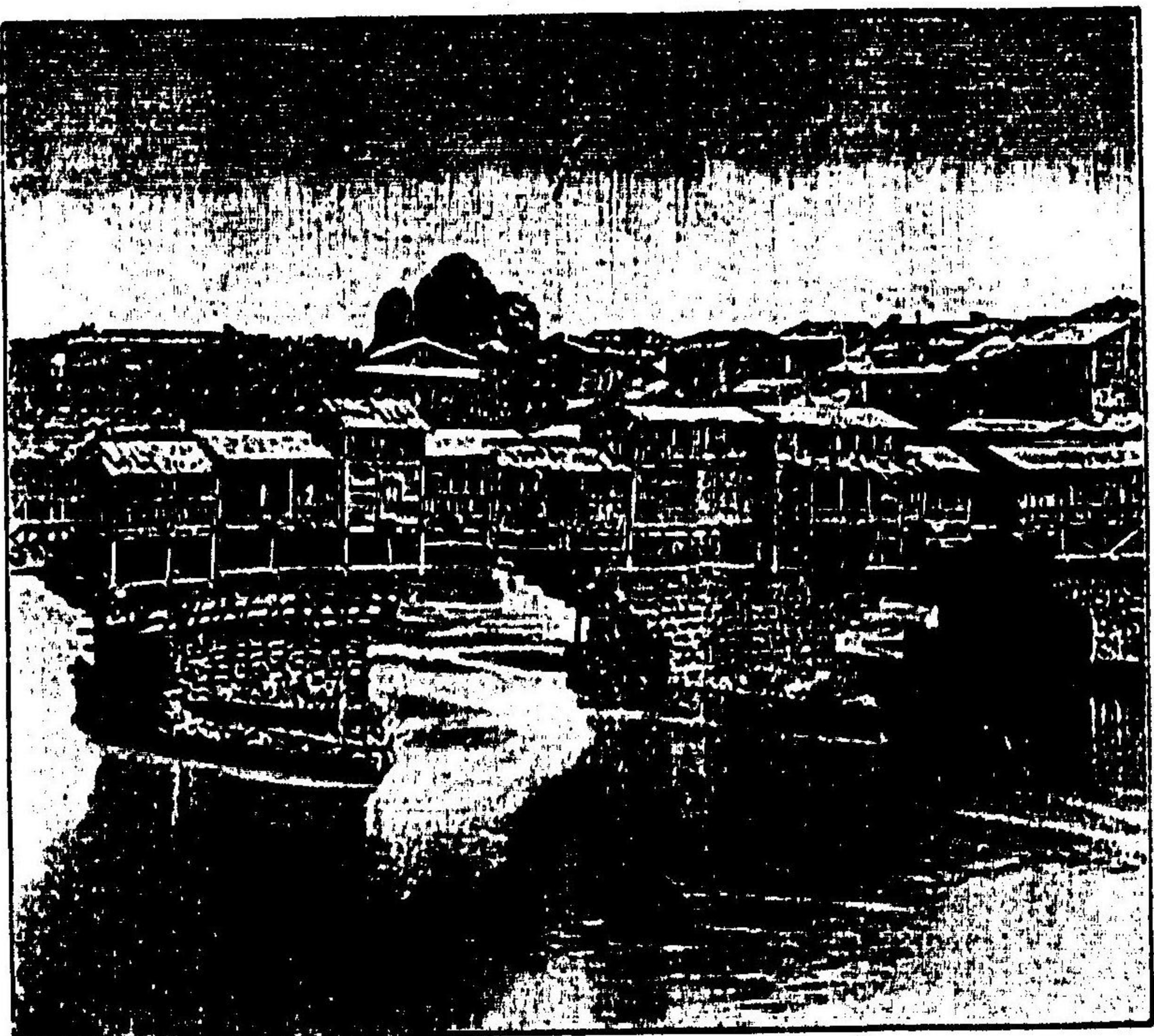


島 - ペムゴ

ドンと稱すれども、土地卑濕に過ぎて、氣候の悪きと、飲料水の不真なるにより、夏時流行病の繁殖地として世に知らる。市況は、綿麻の製品盛んに、又鴉片・米・茶・藍等の

輸出あり、ボムベ^(BOMBAY)は人口八十餘萬、西部の海岸、同名の島上に立ち、綿産地との交通は、棧道を架し、鐵道を敷けるにより、市

況は紡績業最もよく行はれ、その海港は綿の輸出はもとより、スーエズ運河の開けし以來、内外の貨物多く集り、支那との取引最も盛大なり、我が國の紡績絲は、原料をここより仰ぐ者多く、日本郵船會社の船舶、その漕運を取扱ひ、我が領事館あり、その他、コロマンデル海岸のマドラス・ガンデーズ河流域のペナレス・パトナ・ゼリー等も市況繁華にして、カシールなるスリナガルの如きも、羊毛の産を以て知られ、その肩掛殊に世に名高し、コロボはセーロン島第一の都會にして、西海岸に臨み、東西に往來する船舶は、石炭準備のためここに寄港し、帆檣常に林立す、島の中央なるカンデーは佛教教徒の靈地にして、地高きにより、夏時印度より外人の避暑するもの多し。



街市のルガナリス

政治は、大總督
イギリスなる
インド事務大臣の命を承けて政務を執行し、地方制度は直轄部落部に二分し、直轄部には、知事、副知事、或は代理官を置き、藩部は今も猶藩王部

内を治め、總督府派遣の駐在官政務を監す。セーロン島は、イギリス政府直轄の殖民地たり。兵備は、イギリスよりの派遣兵十萬許、土人兵十五萬と、外に、東インド艦隊あり。

イギリスは、かくインド全體を領すれども、猶ネパール・ブータンの二獨立國と、フランスの領するシ、ンデルナゴール・ポンヂセリ・マヒ・ヤナオン等、ホルトガルに屬するゴア・ダマン・デリーの地區あり。

ネパール及びブータンは、共にヒマラヤ山脈中に位し、一は面積九千方里、人口二百萬乃至五百萬を數へ、他は、面積二百八千方里、人口二萬と稱せらる。

(八) インド支那半島

インド支那半島は、アジアの東南部に位せる、いはゆる欲インド半島の一帯を稱し、ビルマ・海峽殖民地・シムランズ領インド支那の四部に分る。

ビルマ

ビルマはインドの東に位し、上ビルマ・下ビルマに分る。全土二千四五百年前の建國にかかる王國なりしが、西曆千八百二十五年、下ビルマ先づイギリスに占領せられ、その後、千八百八十六年、上ビルマまたその版圖に歸し、本國派遣の總督全地を治む。

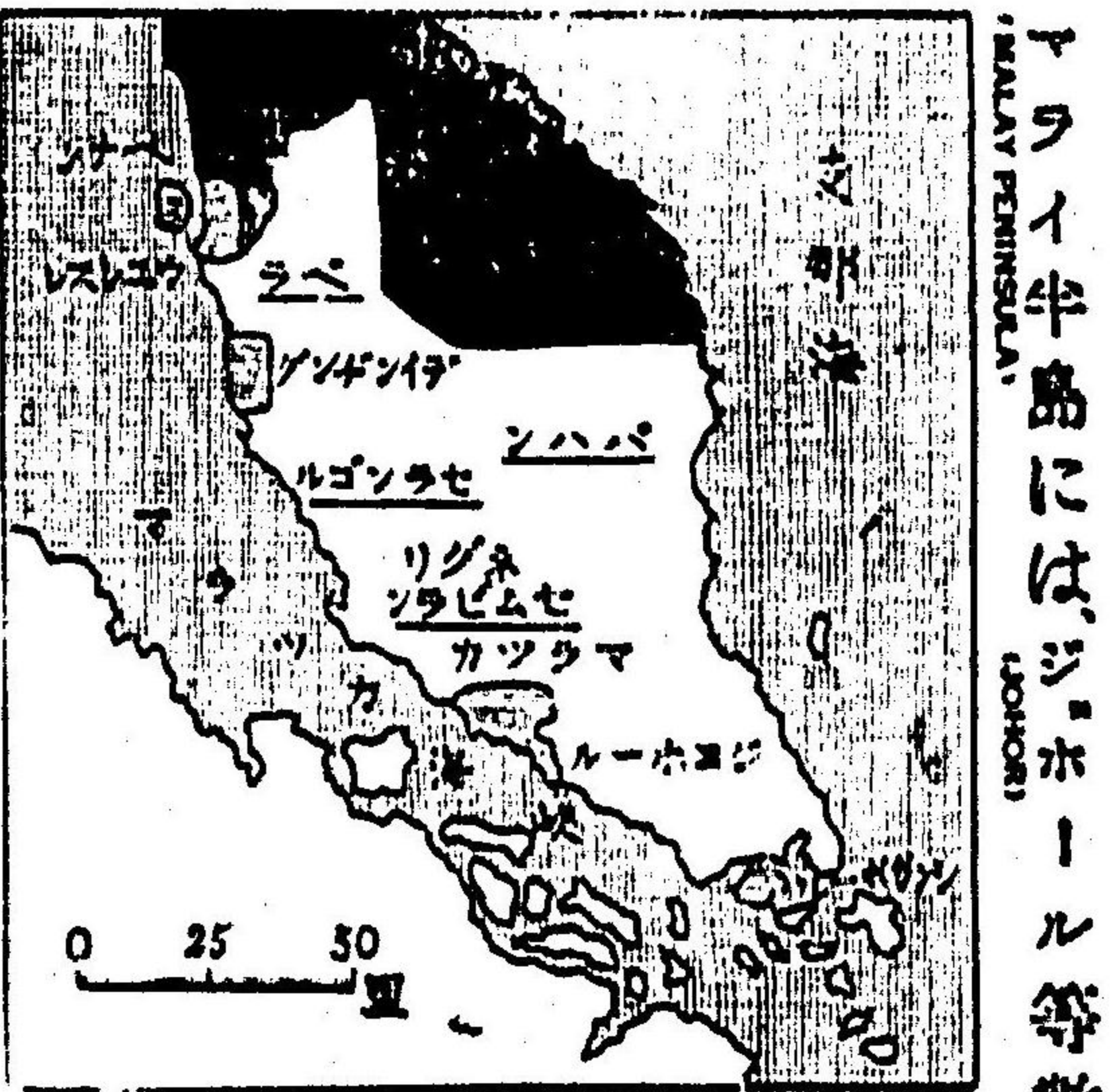
大部は山地なれども、イラワヂ河・サルーエン河の流域は農

産に富む、氣候は暑さ強く、大抵乾濕の二期に分れ、五月より十月までの間に霖雨あり、物産は米・綿・藍・石油・硫磺・材木・眞珠・貝・寶石・虎皮・水牛皮等を主とし、殊に水牛は、到る處に貴重せられ、農家にては、財産の多少は、全く水牛の多少に比例し、多きものは數百頭を飼養せり。

ラングーンは下ビルマ第一の都會にして、イラワヂ河の三角洲に位し、總督所在の地たり、市況は米の輸出夥しく、我が國人のいはゆるラングーン米は、ここよりの輸出にかかる、ここより、汽船・汽車は、北へアツを過ぎ、マングレーに至る、マングレーは上ビルマ第一の都會にして、往時は市街賑やかなりしが、水陸交通の便開くるに従ひ、今はラングーンと盛衰その所を換へぬ、SHANパーマはイラワヂ河の航行極限に位し、

鐵道また、マングレーに通じて、支那との貿易盛んなれども、支那・シムに通ずる、鐵道の竣工するに際せば、貨物の繼立場として、市況一層繁華なるに至らむ。

海峡殖民地



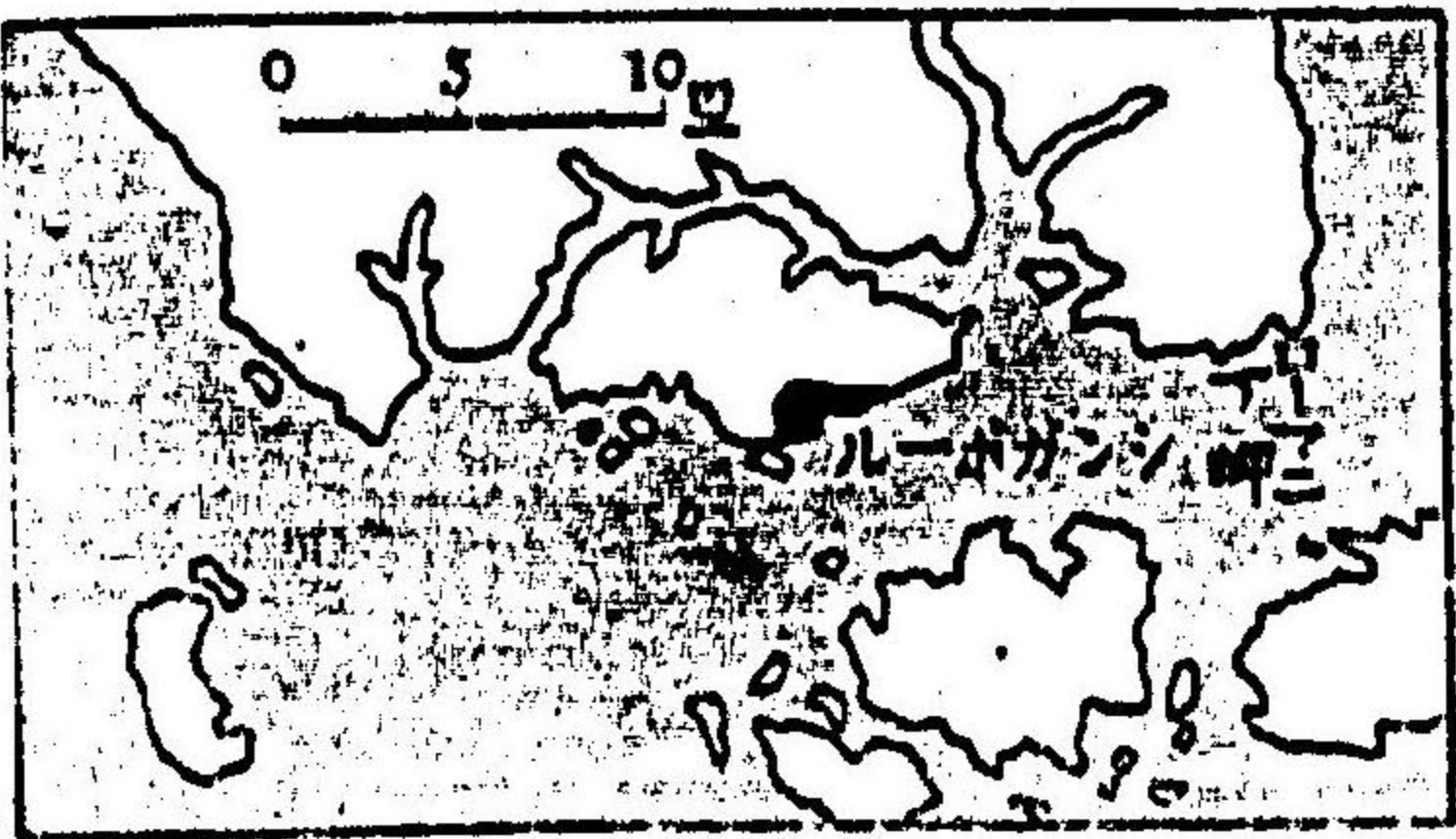
海峡殖民地

マライ半島には、MALAY PENINSULA ジョホール等數邦の小獨立國あれども、その大部は、イギリスの殖民地、もしくは保護地にして、その殖民地は、マラカ及びシンガポール島、メナン島(SINGAPORE) (MALACCA) (PENANG)よりなれる、いはゆる海峡殖民地にして、保護地は、メラ(CELEBES)、セランゴール、ネタリ、セムビラ(SELANGOR) (NEGERI SEMBILAN)

新設

ン・パハンの各酋長國がなせるマライ聯邦を稱す。
(FEDERATED MALAY STATES)

シンガポールは人口二十三萬、シンガポール島の南端に位



ル - ボ ガ ン シ

支那人はもとより、あらゆる世界の各人種、大抵ここに集まらざるはなく、我が國人もまた在留し、ペナン等の地にあるものを合すれば、その數千人以上に達し、領事館の設けあり。

し、殖民地政廳所在の地にして、總督ここに駐在す、この地は東西兩洋に通ずる咽喉に當るを以て、貨物の集散速く、輸出はマライ半島より集むる錫、金、砂糖、珈琲、香料、護膜、椰子などを主とし、我が國より、石炭、燐寸等を輸入す、この地は、人種の博覽會ともいはれ、マライ人は、

個

この種の一
くこの種の名

シ ャ ム

シヤムは、ビルマとフランス領インド支那との間に挟まれる、
獨立の王國にして、面積三萬餘方里、人口六百萬あり。

地勢は、東部西部に山岳を充たし、中央はメナム河、北より南

に注ぎ、その中流以下は、沃野遠く連なり、シヤム灣にかけて、一

の丘陵を見ず、氣候は全部熱帯に位せるにより、炎熱甚だし

く、大抵乾濕の二期に分れ、十月より二月までは、日中の溫度

華氏の九十度に達し、三月より五月に至る間は百十五度に

昇り、低きも猶九十度を降らず、外人の風土に慣れざるもの、

陰雨の候、熱病にかかるもの多し。

物産は米を第一とし、品質は劣れども、年内二回の收穫あり

て、輸出品總價格の八割を占め、シヤム米とて、我が國の市場に

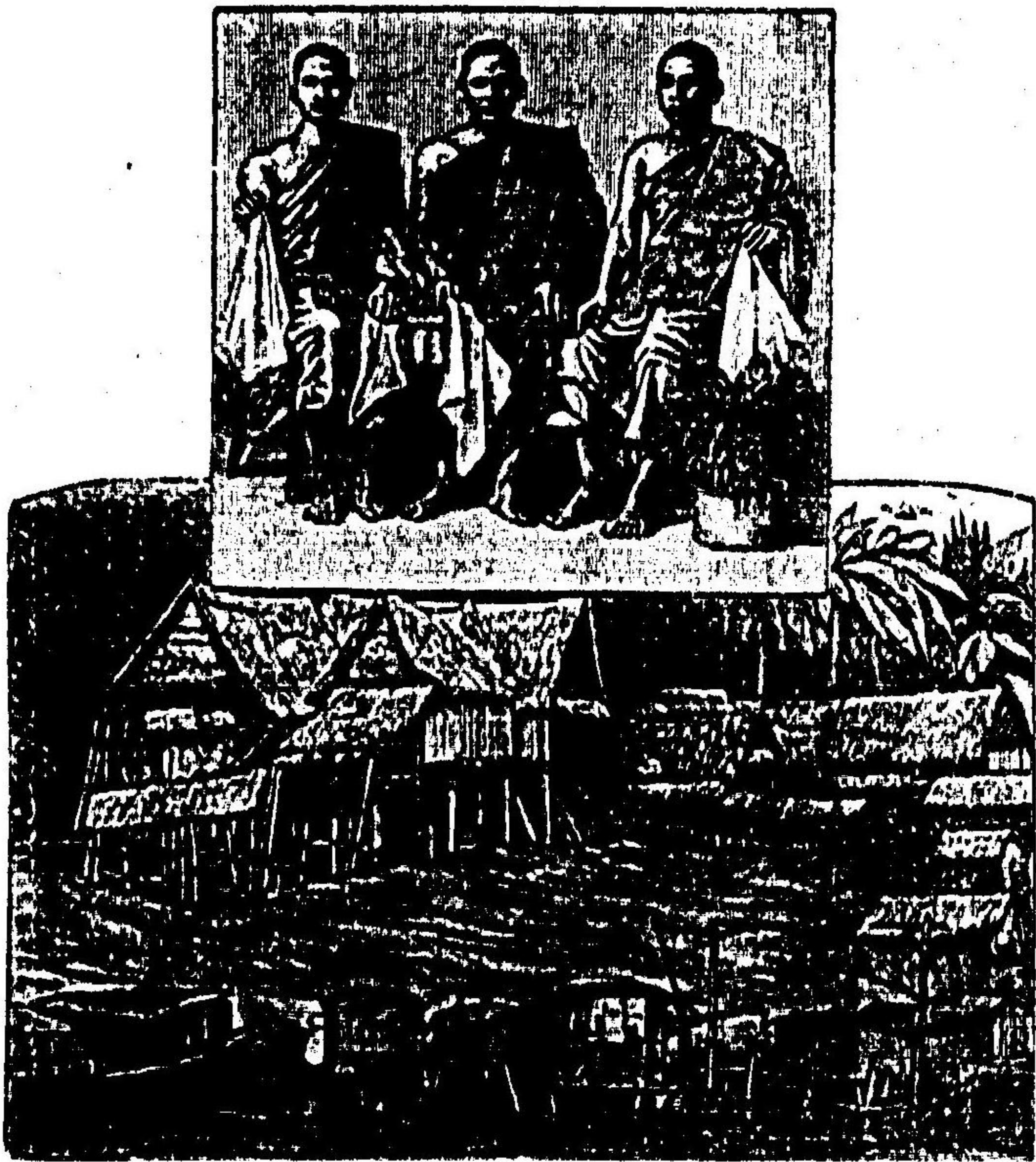
(C) 1914 年

シヤム

九九

取引せらる、外に、胡椒、腰膜、黄蠟、チーク材、烏木、紫檀、象牙、犀角等、また皆主要の輸出品たり。輸入は金巾、更紗、毛織物、紡績絲等多く、我が國よりは、現時僅に燐寸、陶磁器、金巾、洋傘、靴類を輸入すれども、彼我の交通、漸次頻繁なるに至らば、將來我が製品費消の一大華客たるを失はざるべし。

國民は大抵蒙古人種、マライ人種にして、性溫和なれども、一般に怠惰にして、賭博を好み、飲酒に耽り、政府また賭博を公許し、税金をとりたててその歳入を補ふ、従ひて、都會には、賭場を設け、大なるものには常に二千人許の人民集まり、互に勝負を争へるさまは、實に他國になき例とす。國民生活の程度甚だ低く、家屋は僅に日光を防ぎ、雨露を浚ぐに止まり、食物は、椰子、檳榔子、甘蔗等を食し、風俗また多くは裸體、跳足に



國民と僧侶

して、ただ腰巻、乳被を纏ふのみ。宗教は、佛教を信ずること厚く、男子は、一度僧とならざれば、國民たるの資格なき習慣ありて、二十歳前後に至れば、僧侶となり、七八箇月より、多きは

二年間、村里に托鉢したる後還俗し、國王と雖も、即位前には

人口二十
五萬

必ず僧となるを例とす、されば、到る處、寺院の多きと、その建物の宏大美麗なるとは、皆外客の驚く所なり。

(BANGKOK)

バンコクは國の首府にして、メナム河に跨り、通商の要路に當り、市況盛んに、殊に王宮、官署、皇族の邸宅、無數の寺院、高塔

などは、その建築を西洋風に倣ひ、結構華麗を極む、この地、又

浮都として、河の兩岸に船住家屋ありて、府民約三分の一は、生

涯をここに送る、その構造は、チーク材にて基礎を作り、その

上に、柱を樹て、屋根を覆へるものにしあれば、風荒み、波高き

日は、揺々として波間に漂ふ舟の如く、夜間これを望めば、輝

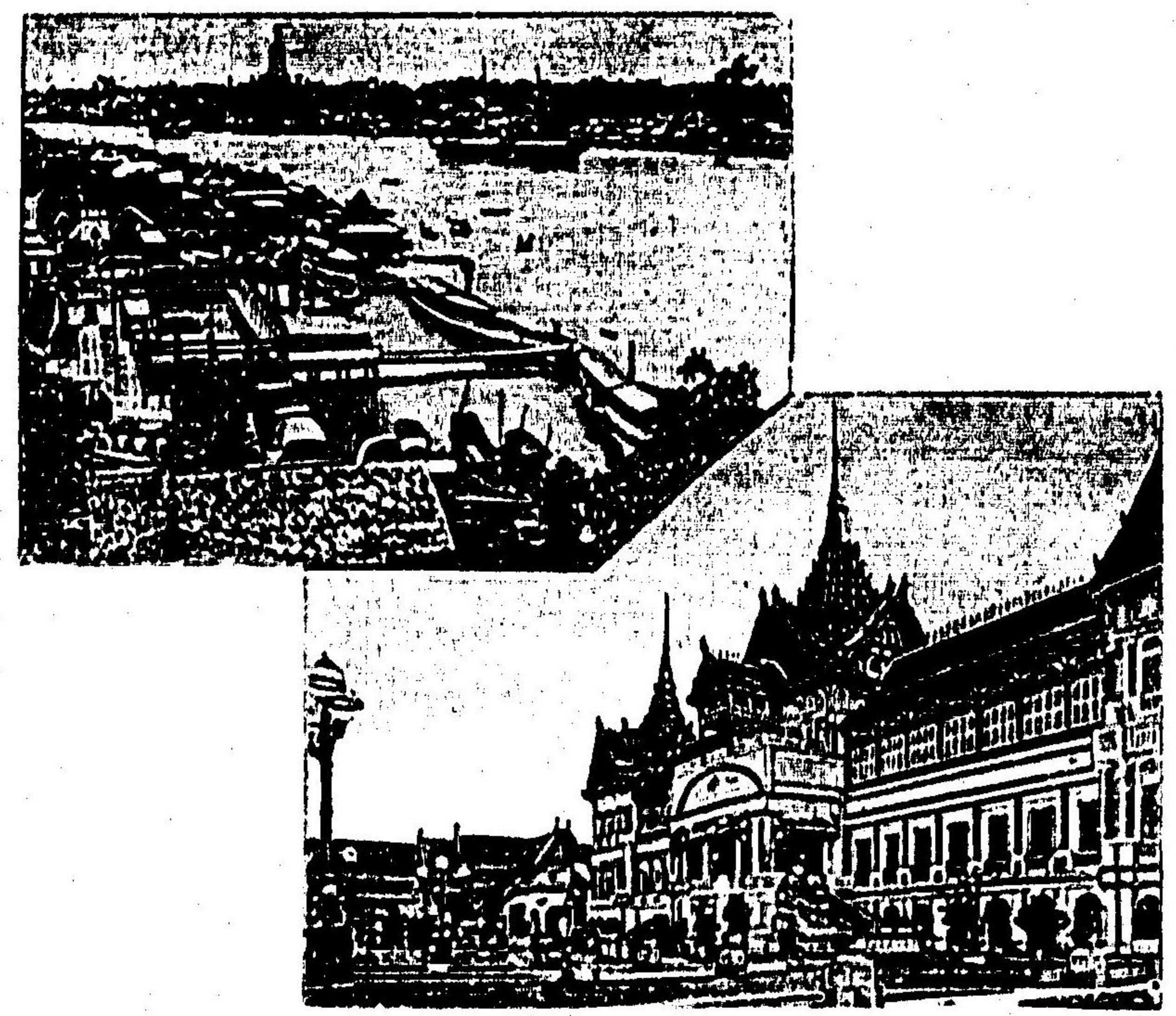
き亘る萬燈は波に映じ、又四時燈火のこれを助くるありて、

實に府内第一の光景なり。ここより鐵道は、一は、河口のバク

ナムに至り、他は、北にアヌーチアを経てコラトに達す。

(SAUTHA)

(KORAT)



昨河ムナムと拔王

政體は君主專制にして、行政權は、國王内閣と共にこれを執行し、王族甚だ權力ありて、大抵内閣各部の長たり。陸軍は、常備兵僅に五千に足らず、海軍は、二十二隻の小軍艦あり。

明治二十一年、我

が國と通商條約を結びたり、されど、個人の航通は、久しき以前より始まり、一時我が商人渡航して、日本町を建て、在留人七八百人に及びしことありて、山田長政の如きは、國王を輔け、内亂を鎮め、封侯の榮爵をさへ賜はりしことあり。現時我が國人多く在留し、バンコクには、公使館、領事館あり。

フランス領インド支那

フランス領インド支那は、インド支那半島の東部、(INDO-CHINA) 河以東の地を占め、面積約五萬方里、人口二千百萬あり、分ちて、(TONKIN) トンキン、(ANNAM) アンナム、(COCHIN CHINA) コーチ支那、(CAMBODIA) カボデアの四區とす。全土もと、アンナムの地にして、東洋屈指の專制王國なりしが、西曆十八世紀の末より、フランスに犯され、現時コーチ支那、トンキンは、その領土となり、アンナム、カボデアは、獨立の王國

廣く
安南
支那
交趾支那
暹羅
カンボジア
の
名に
基く

この下流を
ムカサア河
といふ

なれども、これまたフランスの保護を受け、本國は、財政上のことにまで商議の權を有し、獨立は殆ど有名無實たり。
山岳域内を南北に延び亘れども、コーチ支那は平坦にして、トンキン河、(MEKONG) メーコン河の流域と共に穀産に富む。氣候は暑さ強く、大抵乾濕期に分れ、六月より九月までの間降雨多し。米は地方第一の産物にして、我が國人の、いはゆる南京米、即ちトンキン米、サイゴン米、殊によく我が市場に知られ、森林よりはチーク材を出だし、山間肥沃の地は、胡椒、腰膜、檳榔子等を産し、アンナムの肉桂(GAMBOGE) わけて世に名高く、又處々に鐵産あり。

支那人は
順化府といふ

トンキンのハノイ、アンナムのフーエ、コーチ支那のサイゴン、カボデアのポンペン(PHNOM PENH) は、皆地方の首府にして、トンキンの

ハイフン(HAI PHONG)また海港たり。その中、サイゴン(SAIGON)は最も要害の地に
して、總督ここに駐在し、艦隊を置き、陸兵を分屯せしめて防
禦に備ふ。

住民は、大抵蒙古・マライの雜種民族にして、性一般に怠惰遊
樂に耽り、忍耐の氣象に乏し、支那人の移住して、勞役に服す
る者多く、商權も亦全くその手中にあり、宗教は、佛教を奉ず
る事厚く、皆競りて寺院を壯麗にし、アンナム國王の宮殿の
如きは、金銀を以て鏤めたる佛像を城門に安置し、結構華美
を極む。

馬來群島

(九) マライ群島

マライ群島(MALAY ARCHIPLAGO)は、又東インド群島(EAST INDIA)と稱し、マライ半島の南端よ
り、東のかた、ニール、ギニー島までの間に散在し、北は我が臺灣
の南に及ぶ。分ちて、スマトラ島、ジッヅア島、ボルネオ島、スル諸
島、フリー、ピン諸島、セレベス島、チモール島及びモラカス諸島
とし、またボルネオ、スマトラ、ジッヅア、セレベス等を大スンダ
諸島(LESSER SUNDA)、チモール島及びその西の數島を小スンダ諸島(GREATER SUNDA)ともい
ふ。群島の大部はオランダに屬し、その他は、北米合衆國、イギ
リス等に分屬す。

地勢は火山質の山岳多く、殊にジッヅア島の如きは、活動せる
火山に富みて、往々震害を蒙ることあり、中にも、西曆千八百
八十三年に於ける、スンダ海峽なるクラカタア島(KRATAVA)の噴火の
如きは、歴史以來未曾有の大爆裂をなし、島の北部の大半は、

面積二萬
五千餘方
里

全く空中に吹き飛ばされ、その火山灰は、遠く世界を一週し、
 全地球の人、一時日光の赤色なるを認めしことあり。
 土地熱帯に位すれども、各島相距たれるにより、海氣常に炎
 熱を柔らげ、濕地を除くの外は、大抵健康に適し、降雨また多
 く、農産よく稔り、米・甘蔗・煙草・珈琲・甘蔗等に富む。
 住民の多くはマライ人種にして、大抵は農を事とし、内地に
 は、人肉に舌を鼓するもの、又邊海には、海賊を業とする蠻民
 あり、宗教は概ね回教を奉じ、蠻民は禽獸草木の類を崇拜す。
 スマトラ島はマライ半島の南に位し、東南より西岸へかけ
 大部はオランダに屬し、北部は許多の部落に分れ、酋長
 に屬す。物産は樟腦・胡椒・黃蠟を主とし、また石油の産出は、頗
 る多量なれども、本島の主産物は錫にして、バンカ島・ピリト

(BANKA) (PILITON)

面積八千
五百餘方
里

面積二萬
五千餘方
里

ン島よりの探掘殊に夥しく、オランダ殖民地が、マライ半島
 につき世界に於ける錫産額の第二位を占むるは、全くこの
 二島よりの産出多量なるによる。

スマトラ島はスマトラ島の東南に位す。全部はオランダに屬
 じ、^Eスマトラ島はスマトラ島の東南に位す。全部はオランダに屬

(JAVA)

し、米・珈琲・甘蔗・幾那胡椒・茶等に富み、殊に米は品質佳く、ジッ
 ア米とて、常にヨーロッパの市場に、我が國のと競争し、珈琲は、
 年額十四萬噸を出して、ブラジルにつき、世界第二に位し、ま
 た、幾那は世界産額の二分の一を占む。^Eバタヴィアは本島の首
 府にして、總督駐在の地たり、ここより我が國へ砂糖を輸出
 し、我れより綿布・綿絲・燐寸・硝子器・紙等を輸入す。この島も亦
 石油の産に富み、良質の聞えあれども、採取未だ少なし。

チモール島はスマトラ島の東に位す。東半部はホルトガル、西

(TIMOR)

面積約五
萬方里人口
百七十萬

北緯度諸島

半部はオランダに分屬し、物産はただ黄蠟あるのみ、本島と
 ジェア島との間なる、バリ、ロボック、スマバワ、フロレス、スマバ等の
 諸島は小スンダ諸島に屬し、皆オランダの領土たり。
 ボルネオ島はスマトラ島の東に位す。全土十分の七はオラ
 ンダに屬し、東北部のイギリス領北ボルネオ、西北部のブル
 ーネイ、サラワクは、共にイギリスの保護を受く。物産は燕巢、
 樟腦、金剛石、金鐵、石炭等を出だし、イギリス領北ボルネオは、
 砂糖、珈琲、煙草の栽培に適す。
 スル諸島はボルネオ島の東北に位す。全部スペインの領地
 なりしが、西暦千九百年、十萬弗にて北米合衆國に讓與せり。
 フリピン諸島はボルネオの東北に位し、北はバシー海峡を
 距てて我が臺灣に對す。全部ルソン島、ミンダナオ島等を始

め、大小二千許の島嶼よりなり、面積約二萬方里、人口八百萬
 あり。物産は煙草、麻、砂糖、コーブラを主とし、殊にマニラ煙草
 は世上に有名なり。
 この諸島は、西暦千五百二十一年、マゼランによりて發見せ
 られ、その後、スペインのフリック二世、全島を征伐せしより、そ
 の名をとりて本島に命じ、久しくその領地なりしが、先づ頃
 米西戦争の結果として、北米合衆國これを占領せり。我が國
 との交通は、豊臣時代の始めより行はれて、原田孫七郎の如
 き、島原の城主松倉重政の如き二三の邦人、ことを貿易に托
 して、ひそかに覬覦の心をいだきしものありき。
 マニラは全島の首府にして、ルソン島の西南海岸に臨み、貿
 易の盛んなること南洋第一たり、我が國人ここに在留し、領

人口三十
五萬

事館の設けあり、我れより、石炭、燐寸、綿織絲、甘薯、中斐絹、洋傘などの輸入あり。その他、パネー島のイロイロ、セブ島のセブ等、また貿易よく行はる。セブ島は、西暦千五百二十一年、マゼランの殺されし處なり。

セレベス島は、マカッサル海峡を距てて、ボルネオ島の東に位す。北部の一半はオランダに屬し、南部は土人の部落に分れ、獨立す。物産は珈琲、燕巢、煙草、及び金石炭を主とす。

モラカス諸島はセレベス島の東に位し、丁香、肉豆蔻、肉桂等に富めるにより、又スバイス島と稱す、全部オランダに屬す。

大洋洲 (OCEANIA)

大洋洲は、マライ群島より東南へかけて、太平洋の一面を點綴する大小無数の島嶼を稱し、全部我が國の南に位せるにより、マライ群島と共に、或は、單に南洋諸島ともいふ。大別して、(一)オーストララシア(二)メラネシア(三)ミクロネシア(四)ポリネシアの四群島とし、面積六十萬方里、人口六百萬あり。これ等の群島は、往時蠻族の部落なりしが、西暦十六世紀の頃、スペインがフリビン諸島を占領せしより、イギリス、フランス、ドイツ等の諸國は、競うて領土を分割し、現時二三の諸島を除くの外は、豆大の孤島も、外國の所屬たらざるはなく、ヨーロッパ人、アメリカ人また、各島に移住してあらざるはな

し、我が國との交通は、日猶淺く、從ひて、貿易も未だ盛んならざれども、航通の容易なると、我が國人に適する事業あるとにより、出稼するもの漸次増殖し、日本郵船會社また、この方面へ航行を開けるにより、將來彼我の關係益々頻繁なるに至らむ。

(一) オーストララジア群島

オーストララジアはマライ群島の東南に横たはれるオーストララシア(AUSTRALASIA)、ニューギニア(NEW GUINEA)、ジラランドの三島よりなり、全部イギリスに屬す。我が國人の濠洲といへるものこれなり。オーストラリア島は、ニューギニア島の南に位する大島にして(AUSTRALIA)

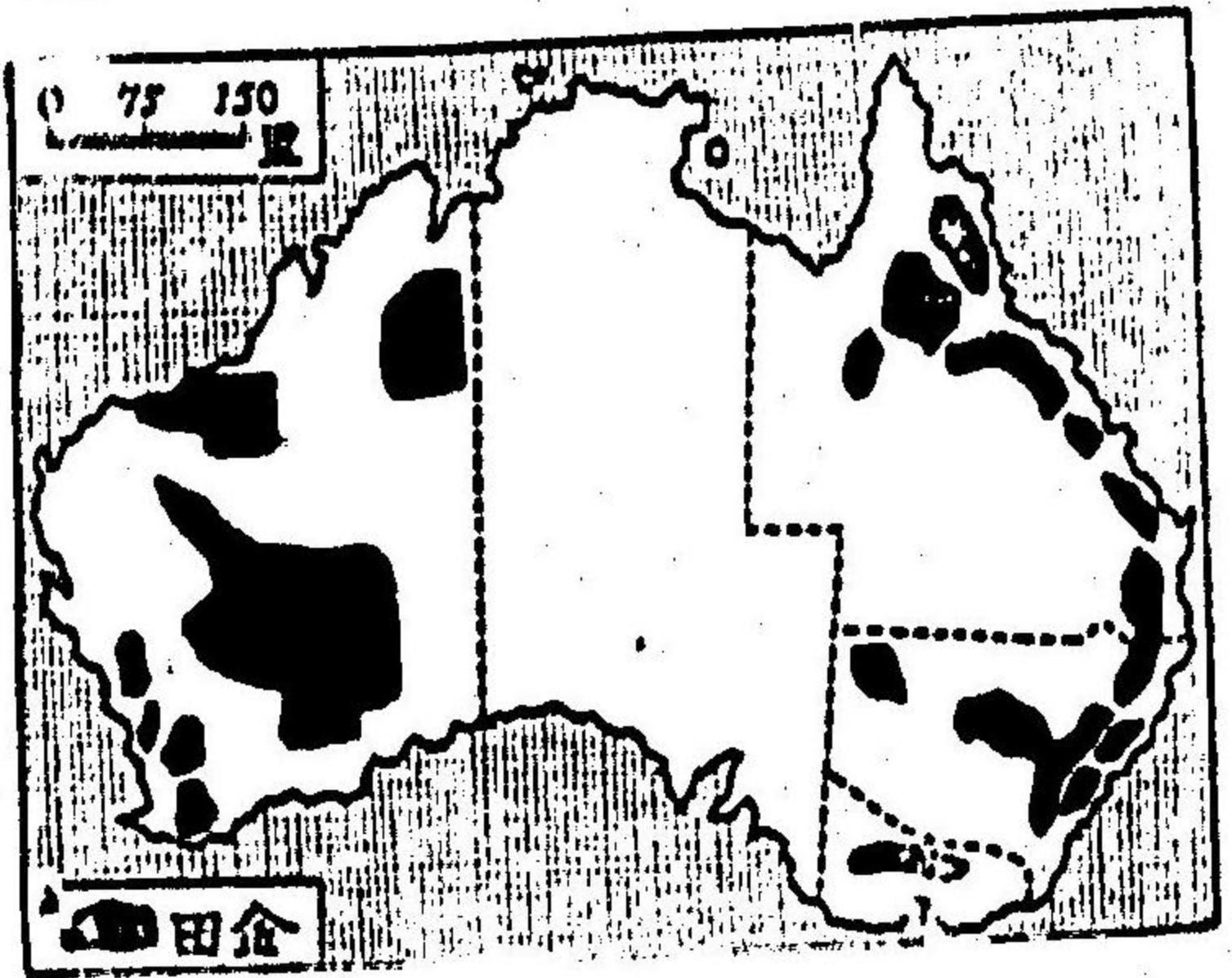
て、面積約五十萬方里あり、域内をウヰクトリア(VICTORIA)、新南ウヰールズ(NEW SOUTH WALES)、クィンズランド(QUEENSLAND)、南オーストラリア(SOUTH AUSTRALIA)、西オーストラリア(WEST AUSTRALIA)の五州に分ち、その東南なる、タスマニア州(TASMANIA)の島と共に、濠洲聯邦國を組織す。

沿岸は、濠洲大灣(GREAT AUSTRALIAN BIGHT)、カーペンタリア灣(CARPENTARIA)等の外、屈曲甚だ少なく、加ふるに、トーレス海峡(TORRES)よりハーヰヰー灣(HERVEY)にかけ、千二百海里の沿海には、廣き處、百海里に亘る大塔礁斷續して、航海の危険少なからず、地勢は、低山脈東岸と並行して南北に亘り、その南端は、西に曲りて濠洲アルプス山脈(AUSTRALIAN ALPS)を起せる外、連脈の西斜面は、漸次中央部へかけて低原となり、その西部は、再び高原をなせども、全土四分の三は大平原に屬す。河流は、東南部のムーレー河(MURRAY)のみ、獨り舟運の便あれども、その他は、大抵

雨ふれば、河水俄に漲り、平時は、鹽原・砂漠の中に、その流路を失ひ、偶、海に達するものもあるも舟楫を通せず。

氣候は、北の半部は、熱帯に位せるを以て、十月より三月に至る夏期と、四月より九月に至る冬期との二期あるのみなれども、南部は四季ありて、冬期の溫暖、最もよく人身の健康によろし、されど、中央部は海に遠ざかれると、東岸山脈の東南貿易風を遮るとにより、降雨少なく、空氣常に乾燥して、處々に砂漠性の荒原をなし、往々鑽井を穿ちて、地下水を取るものありて、一般に水に乏し、されば、このあたりの土人、原野を行きて疲勞を覺ゆれば、土を掘りわけ、腹を蔽ひてその渴を醫すといふ、物産は、從來鑛物の外、穀物なく、果樹なく、動物の如きも、世界に稀なるカンガル(KANGAROO)、ウームバト(WOOMBAT)、ブラチバ(PLATYPUS)、ゲン

ゴ一等の奇獸のみなりしが、外國人の移住せしより、その他の各種も、皆よく生育し、農産は小麦・玉蜀黍・葡萄・綿等を主とし、小麦の産額最も夥し、又原野には、降雨の不順なるにも拘らず、有加利樹(EUCALYPTUS)と稱する護膜樹(GUM TREES)繁茂し、その常緑林中には、牧草一面に生ぜるを以て、牧羊甚だ盛んに行はれ、羊毛の産額は世界第一に位し、年々ヨーロッパにて使用する、毛氈の三分の二は、ここよりその需用を充たせり、鑛産また甚だ豊かにして、金は明治三十四年中の産額約三萬五千貫匁に達して、世界第一に位し、銀は北米合衆國・メキシコにつき、石油・石炭・銅の産また多量にして、石油の如きは、ロシア・北米合衆國につき、世界第三に位す、我が國との取引は、米・絹布類・麥稈・眞田竹籬・竹材・燐寸・華筵・陶器・樟腦等を輸入し、羊毛・ビスケット・獸骨



田 金

牛酪などを輸出す。

内地の交通は、水利の不便はあれども、道路はよく開け、また鐵道は、各地の都邑、鑛山、牧場等を連絡して、今はその延長、約一萬五千哩に達す。外國との交通は、ヨーロッパ、アメリカ及びイギリスの領土、殖民地との間には、定期の汽船常に往來し、我が國との

間には、日本郵船會社の船舶ここに定航し、また海底電線は、ジ・ウ・アを経てアジアに、印度洋を経てアフリカに通ぜり。土人は、黒人種の一派なる濠洲黒族にして、丈高く、肉瘠せ、皮膚褐色を帯び、毛髮縮み、男女裸體を以て常とし、家屋として



濠洲黒族とその家屋

は、夏は枝葉の密生せる樹木を列べ、冬は樹皮を剥ぎて小屋を造り、その前に火を焚きて、寒氣を防ぐに止まり、好んで、禽獸蟲魚を生食し、山野に獵し、鬭争を事とする外、一定の職業なき蠻族にして、今は、その數、僅に六萬より八萬までに減ぜり。外國人のこの地に到りしは、遠き古へに、屬すれども、西曆千六百四十四年に、西北岸がタスマン氏により、千七百

七十年に、東岸がクック氏によりて知られしを始めとし、今より百餘年前には、猶イギリスが罪人を放流せしに止まりしが、爾來漸く一般人民の移住を許せしより、俄に拓殖の歩を進め、今は全土の人口約三百八十萬あり、住民はイギリス人の子孫多く、生業は、牧羊、採礦、農業を主とし、イギリス語を國語とす、宗教は、基督教の新派最も盛んに行はる、政治は、濠洲聯邦總督を以てオーストラリアの五州及びタスマニア州の軍政、民政を統べしめ、内閣ありて政務を分掌し、立法權は、兩院制の聯邦議會に屬す。

ウクトリア州は濠洲の東南部を占む、この地は、西曆千八百三十五年頃には、新南ウールス州の一部として、人口僅に二萬許なりしが、千八百五十一年に獨立の殖民地となり、今は

人口約百二十萬を有せり、メルボルン(MELBOURNE)は州内第一の都會にして、南部の海岸、ヤラ河(YARRA)に跨り、人口五十萬に近く、大學校、圖書館等、宏大なる建物あり、取引は羊毛、金を主とし、市況の盛んなること、濠洲第一たり。

新南ウールス州はウクトリア州の北に位す、この地は、西曆千七百八十七年に、獨立したる、濠洲最舊の殖民地にして、今は人口凡そ百四十萬あり、シドニー(SYDNEY)は濠洲聯邦政府所在地にして、人口四十四萬、ジクソン灣(JACKSON)に臨み、羊毛の輸出夥し、我が國の總領事ここに駐在す。

クィンズランド州は新南ウールス州の北に位す、この地は、西曆千八百四十二年、一般人民の移住を許し、その後、十七年を経て獨立の殖民地となり、現時人口五十餘萬を有す、

ブリスベンは州内第一の都會にして、東南岸に臨み羊毛の輸出あり、東北海岸のタウンズビルには、我が國の領事館あり、ヨーク半島の北なる木曜島には、眞珠貝漁業のため、我が國人の出稼するもの凡そ六百人に達せり。

南オーストラリア州は、本島の中央を南北に貫ける地にして、人口四十萬に近し、アデレードは州内の大都會にして、東南海岸に臨み、羊毛・小麥の輸出あり。

西オーストラリア州は、濠洲の西部、東經百二十九度以西の全部を稱し、人口二十萬許あり、パースは州内第一の都會にして、西南海岸に臨み、その外港のフリーマントルは、アフリカに通ずる海底電線の起點に當れり。

タスマニア州は、バス海峡を距てて濠洲の東南に位し、内地

は山岳起伏し、その間に許多の湖水を湛へて、風光明媚なるが上に、氣候溫和にして、空氣清涼なるを以て、南半球の中に、最も人身の健康に適する所なりと稱せらる、この地は、西曆千六百四十二年、タスマン氏によりて發見せられ、千八百四年イギリスの殖民地となり、現時人口約二十萬あり、ホバートは州内の大都にして、羊毛・金・小麥の輸出あり。

ニュー・ジージーランド島は、濠洲大陸の東南、千二百海里の洋中に位し、北島・南島を主とす。

地形は東北より西南に亘り、内地は山岳に富み、高きものは一萬二千尺以上に達し、カンタブリの平原は、南島の東部に横たはれるなど、位置・地勢より氣候・風土に至るまで、一に我が國に似たるを以て、又「南洋の小日本」と稱せらる、物産は金

羊毛を主とし、イギリスとの取引あり。オークランド(AUCKLAND)、ウェルリントン(WELLINGTON)は北島に、クライストチャーチ(CHRISTCHURCH)、ダネヂン(DANEDIN)は南島にありて、共に貿易盛んに行はる。この島はポリネシア群島より移りし、マオリと稱する土人の本土なりしが、今は、その族僅に四萬を餘せるのみにて、移住民はイギリス人の子孫多し。政治は、本國派遣の總督政務を行ひ、兩院制の立法議會あり。

(二)メラネシア群島

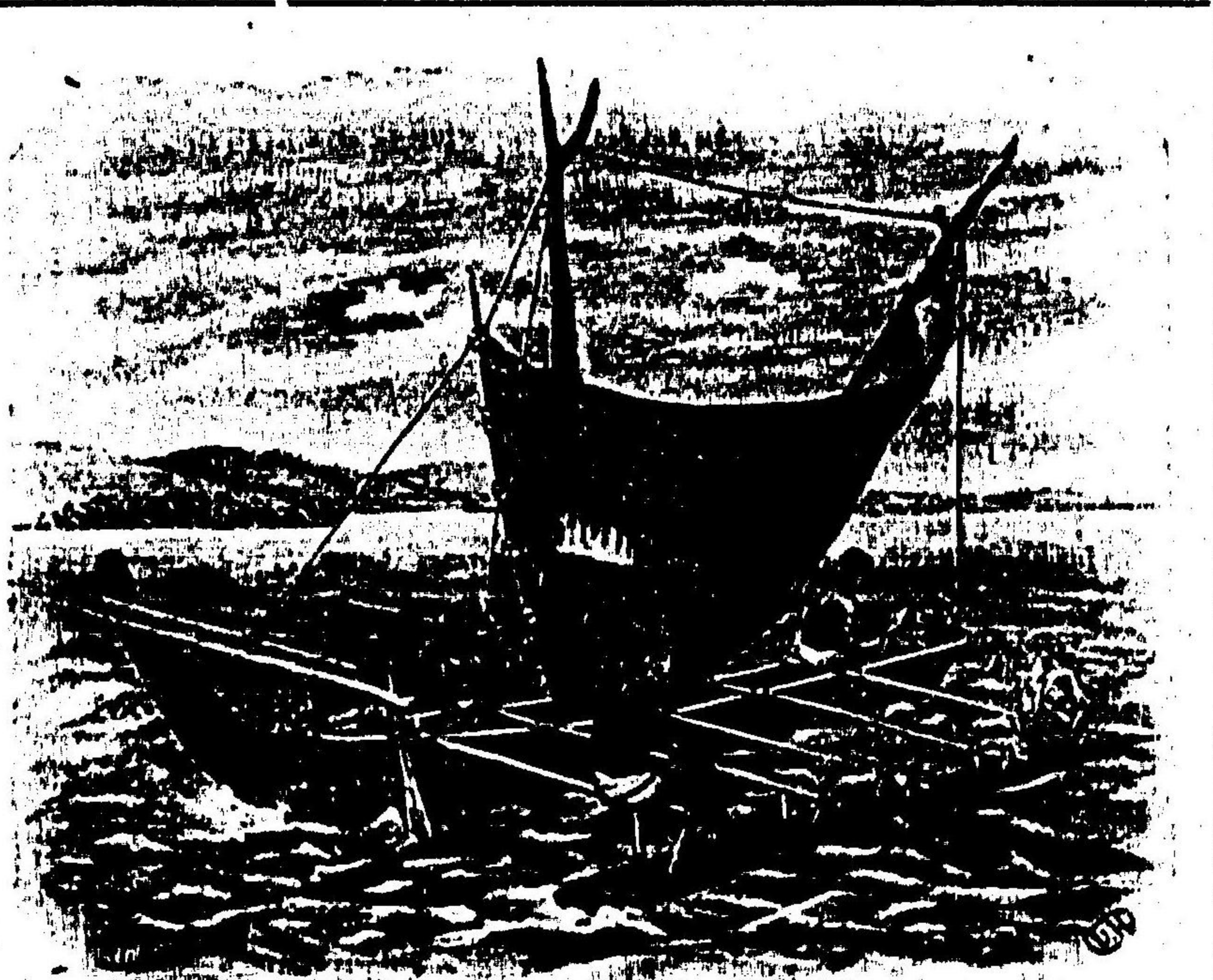
メラネシア群島は、マライ群島の東に散在し、ニューギニー島(NEW GUINEA)、ビスマルク諸島、サロモン諸島、ニューヘブリーズ諸島、ニューカレドニア諸島、ローヤルチ諸島、フィジー諸島をその主島とす。

ニグロイド人種

ニグロイド人種
とはマライ
群島の種

この群島は、地體の構造、大抵火山質よりなれるを以て、山岳に富み、ニューギニー島のオーピエン、スタンリー山脈中の、ツクトリア峯の如きは、高さ一萬三千尺に達せり。氣候は、熱帯に位すれども、海風よく炎熱を調和するにより、暑さ烈しからず、降雨また甚だ多く、従ひて、地味肥沃にして、高地には森林繁茂し、低地には農産夥し。

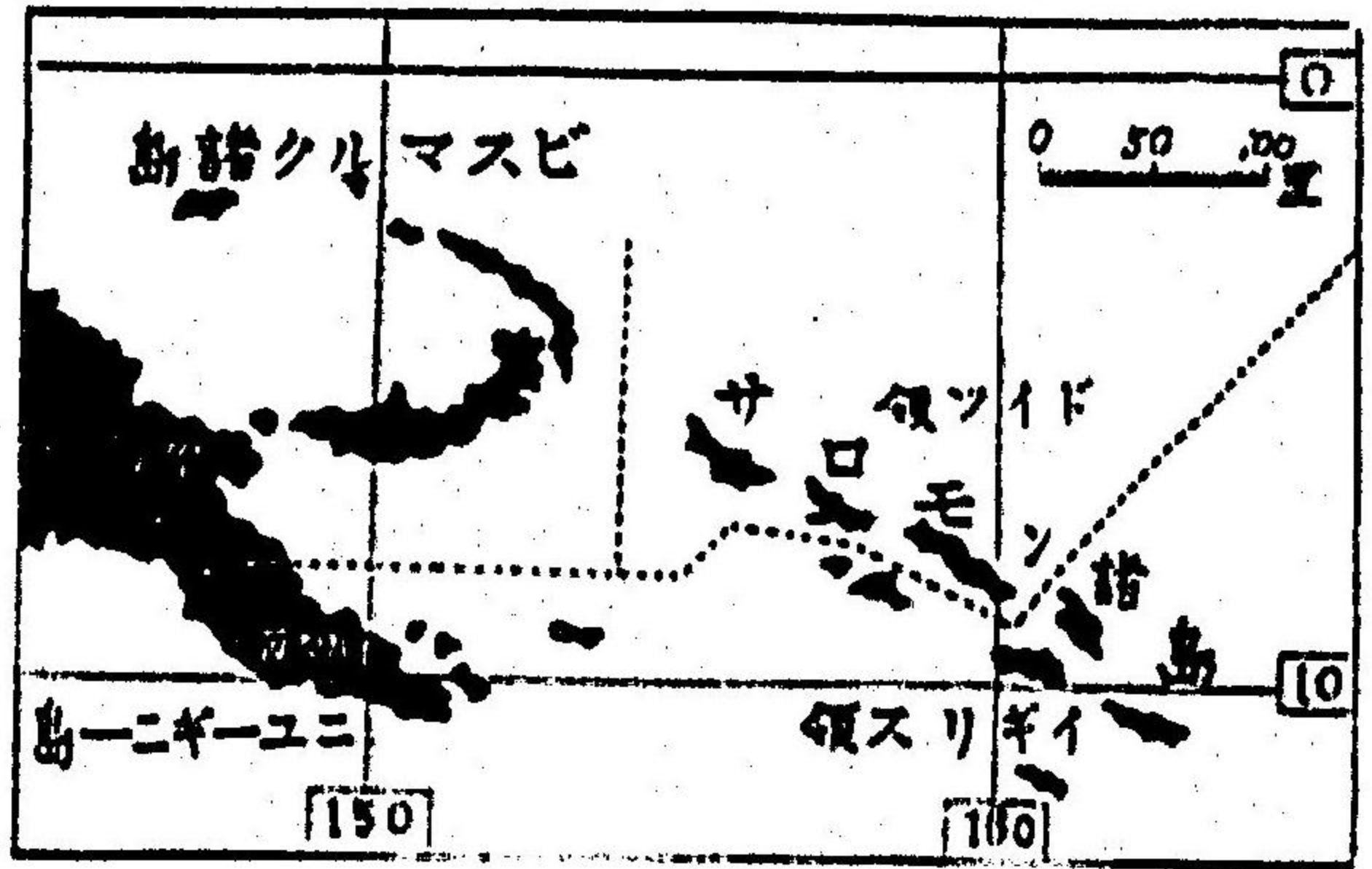
住民は、大抵黑人種の一派なる、パプア人にして、常に、(CANNIBALS) 野果、甘蔗、椰子等を食し、海を航するには、獨木舟を用ふる。未開の民なれども、手工に長じ、又彫刻に巧みにして、棍棒、槍、弓、矢などの武器は、皆にその製作の美麗なるのみならず、中には、これに種々の彫刻を施し、精巧驚くに堪へたるものありて、南洋諸島中最も進歩せる蠻族なり。



舟木獨と人アープバ

ニューギニー島はまたバブリア島と稱す。メラカス諸島の東に位し、面積はボルネオ島より大きく、人口八十萬あり。島の西大部はオランダ、東南部はイギリスに屬し、東北部は、カイゼル、ツルヘルムスタンドと稱してドイツの保護

を受け、また内地は、許多の蠻族に分れて獨立す。輸出はココナツ、眞珠貝、海參を主とし、また極樂島の産あり。



島諸クルマスビ及びソロサ

ビスマルク諸島、ソロモン諸島は、共にニューギニー島の東北に散點し、前者はドイツに屬し、後者はイギリス、ドイツに分屬す。
ニューヘブリーズ諸島は、ソロモン諸島の南東に位し、イギリス、フランス合同の保護を受く。
ニューカレドニア諸島、ローヤリティ諸島は、ニューヘブリーズ諸島の西南に散在し、共にフランスに屬す。
ニューカレドニア諸島は、名高き白

銅の産地にして、我が國人の出稼して採掘に従事せる者千人以上あり、珈琲、甘蔗また殊に良質の聞えあり。

フジ諸島は、ニール、ヘブリース諸島の東方に位し、大小二百五十有餘の島嶼よりなる。全部イギリスに屬し、コーブラ砂糖の輸出夥し。スーズは島中第一の海港にして、北米合衆國、濠洲を往來する船舶ここに寄港し、商業盛んに行はる。

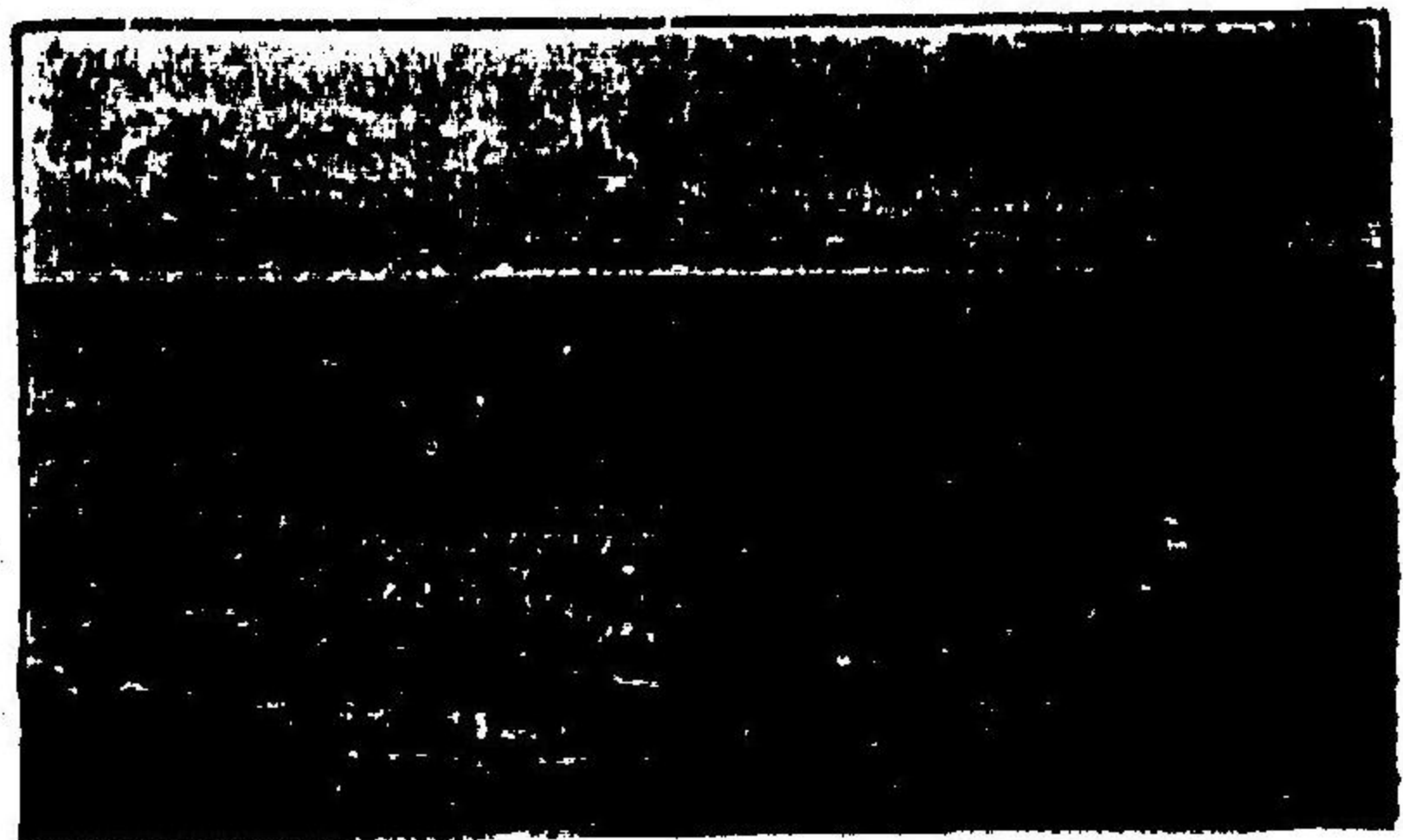
(三) ミクロネシア群島

ミクロネシア群島は、マライ群島の東方、ニール、ギニー島と我が小笠原群島との間に散在し、ギルバルト諸島、マーシャル諸島、カロライン諸島、マリアナ諸島を主なる島嶼とす。

ミクロネシアの

島 珊 珊

諸島の地體は、大抵火山質、もしくは珊瑚質よりなり、氣候は、熱帯に位すれども、涼風絶えず海上より吹きて炎熱を調和す。土人は、ポリネシア族とパプア人との混合種を主とし、マリアナ、カロラインの諸島には支那人、マライ人、スペイン人の血統を交ふるもの多く、殊



にスペイン人とは、交通久しきを以て、風俗は大抵野蠻の域を脱し、言語も亦スペイン語を用ふ。

ギルバルト諸島は、赤道線上に跨り、東徑百七十度より百八十度までの間に散在し、全部イギリスに屬す。

マーシャル諸島は、ギルバルト諸島の西北に位し、全部ドイツの所領たり。

カロライン諸島は、マーシャル諸島の西方に散在す、もと、スペインの領地なりしが、ドイツに賣渡せり。

マリアナ諸島は、またラドローン諸島と稱し、カロライン諸島の北に位す、もと、スペインの領地なりしが、ドイツに賣渡せり、されど、諸島中の最大島なるグアム島は、米西戦争の結果、北米合衆國これを占領し、今は、その海軍の貯炭所たり、諸

ミクロネシア群島の諸島は、大抵野蠻の域を脱し、言語も亦スペイン語を用ふ。

島の北方五百海里にして、我が小笠原群島あり。

(四)ポリネシア群島

ポリネシア群島は、メラネシア群島の東より、遠く太平洋中に羅列し、トンガ諸島、サロア諸島、ツサイエチ諸島、ハーヅール諸島、ハワイ諸島をその主島とす。

この諸島の地體も、また大抵火山、珊瑚の兩質よりなり、ハワイ諸島には、海拔一萬三千尺に餘る活火山あり、全部熱帯に位すれども、夏期は海風よく炎熱を殺ぎ、夜陰殊に冷涼なり。土人は、黒人種一派なるポリネシア族多く、大抵ヨーロッパ人の感化を受け、基督教を奉ずるものあり。

ミクロネシア群島の諸島

トング諸島は、又フレンドリ諸島といふ。フジ諸島の東に位する土人の王國にして、西暦千九百一年以來、イギリスの保護を受く、ヨーロッパ甘蔗の輸出あり。

サモア諸島は、一にナウゲートル諸島といひ、トング諸島の東北に位す。ウホル島のアーピアは海港にして、イギリス人ドイツ人多く在留し、ヨーロッパ綿珈琲を輸出す。諸島の西北大部はドイツに、東南部は北米合衆國に分屬す。

ツサイエチ諸島は、トガン諸島の東に位し、東北なるマルケ

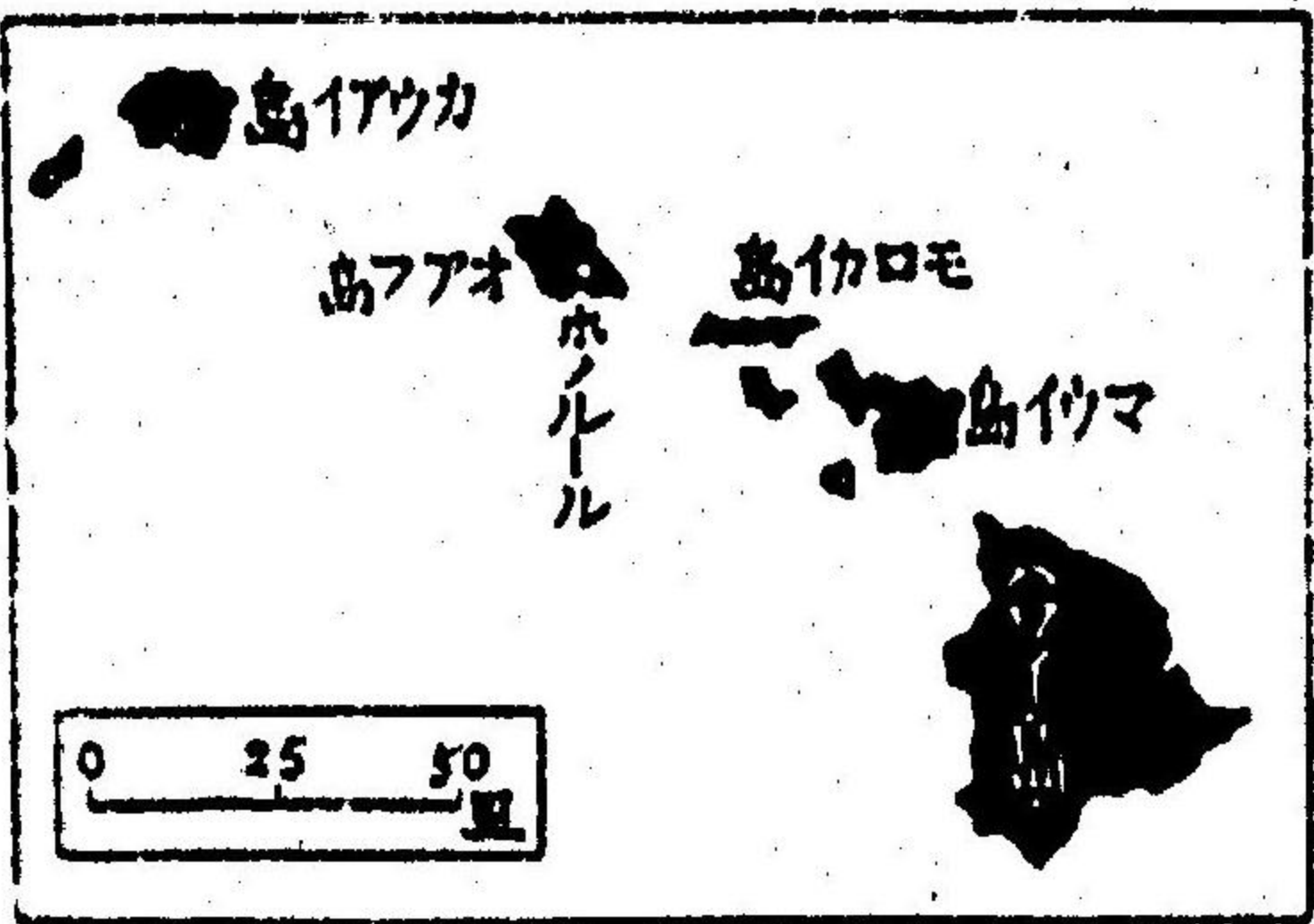
ーサス及びバウモーツ即ちロー諸島と共にフランスに屬し、眞珠貝・ヨーロッパ綿の輸出あり。諸島の中、タヒーチ島は最も大きく、また風色の佳絶なると、氣候の溫和なるにより、

「南洋の樂園」と稱せらる。

ハーヴェー諸島は、またクック諸島といふ。トング諸島の南東に位し、イギリスに屬す。

サンドヰチ諸島は我が國人の俗にハワイと呼べるものにして、其位置、北緯十九度より二十三

度、西經百五十度より百七十度までの間に散在し、ハワイ島・マウイ島・オアフ島を始め、大小二十餘の島嶼よりなり、面積千百餘方里、人口十五萬餘あり。國體はもと立憲君主政治なりしが、西暦千八百九十四年共和政體となり、千八百九十八年終に北米



島諸サハドシサ

合衆國に合併せり。

國內山岳に富み、平地は土肥え、甘蔗、米、珈琲、綿等の耕作に適し、また牛羊の牧養盛んに行はれ、殊に砂糖は主要の輸出品にして、製糖所百以上を有し、北米合衆國との取引最も盛んなり。

ホノルールは全島の首都にして、オアフ島の南岸に臨み、市況繁昌を極め、港内は水深く、大船の出入自在にして、南洋屈指の貿易場なり、我が國より絹手巾、陶器、海産物等を輸入し、我が總領事館も設けられ、國人の出稼せるもの凡て六万以上に達せり。

最新外國地理教科書上卷終

最新外國地理教科書上卷

定價金四拾五錢

明治三十五年十二月九日印刷
明治三十五年十二月十二日發行
明治三十六年六月二日印刷
明治三十六年六月五日訂正再版發行

編者 岩崎重三

編者 池田鹿之助

發行者 内田淺

印刷者 青木弘

印刷所 株式会社 秀英舎第一工場

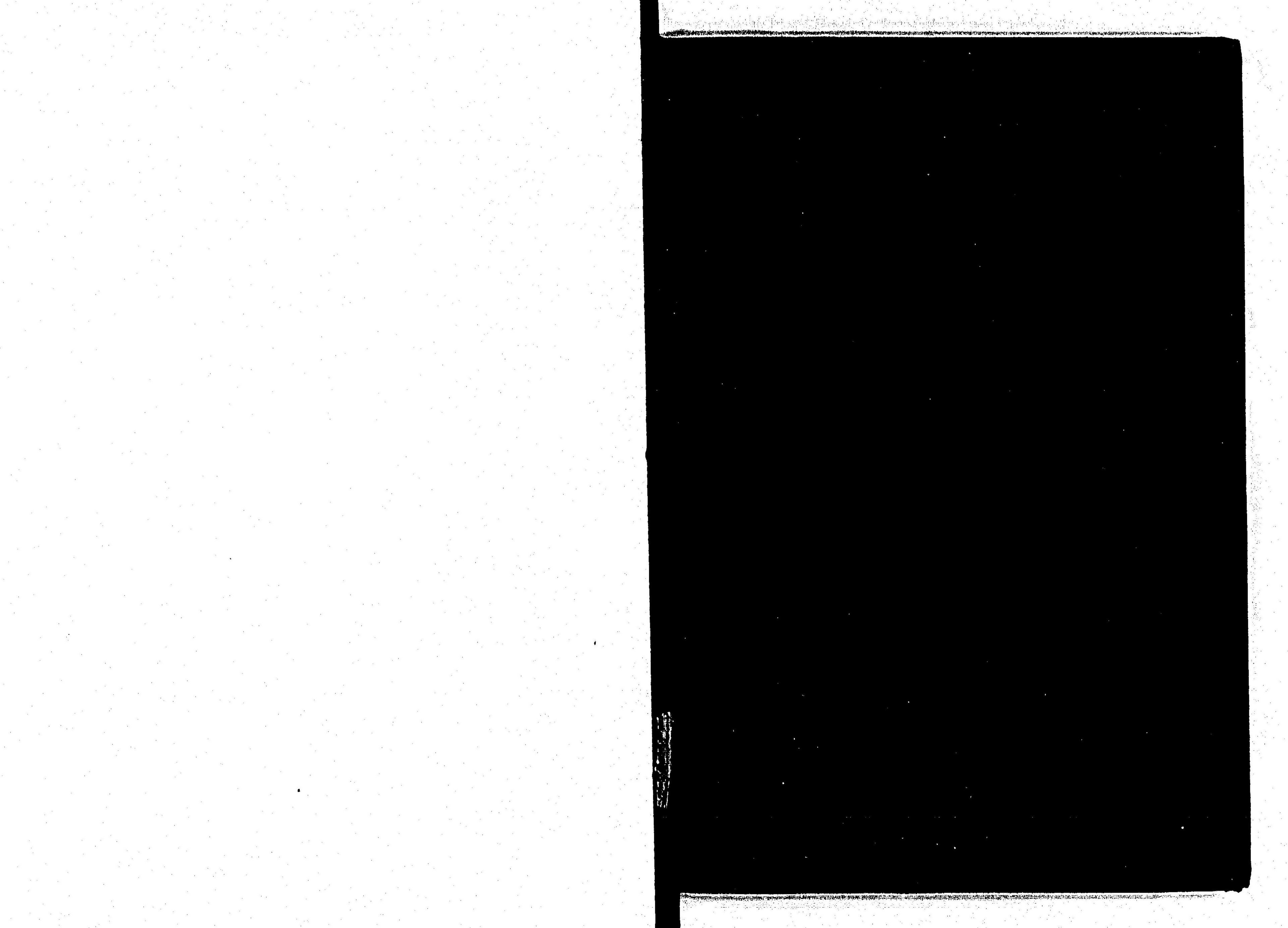
著作權所有

發行所 東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番地 内田老鶴圃

(電話漢花千三百三十五番)



86
281



86
281

021947-001-0

86-281

最新外国地理教科書

岩崎 重三

池田 鹿之助 / 編

上

M36

ADA-0194



